

第八十六回 帝國議會衆議院

船員保險法中改正法律案委員會議錄(速記)第七回

現役青年學校職員俸給費國庫補助法案（政府提出、貴族院送付）（第二二號）

昭和二十年一月一日(木曜日)午後一時
十三分開議

出席委員左ノ如シ
委員長 村松 久義君

理事富田愛次郎君 理事仲井間宗一君
理事渡邊 健君

清水留三郎君
米田吉盛君
高城憲夫君
菅又薰君

花村・四郎君
最上政三君
山口喜久一郎君

吉川 方介君
出席政府委員左ノ如シ
技官完總成 八大
秀次君

拉德隸表
文部政務次官 今井 健彦君
文部參與官 子爵三島 通陽君

文部省總務局長 永井 浩君 勵君

文部省國民教育局長 阿原謙藏君
文部省教學局長 近藤壽治君

文部省科學局長 清水虎雄君
厚生省部長 敏男君
佐伯

厚生省部長齋藤
軍需省部長山口
喬君

日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ
現役青年學校職員俸給費國庫補助法

案(政府提出、貴族院送付)
村松委員長 是ヨリ會議ヲ開キマ

一君
引續キ質疑ヲ行ヒマス——仲井間

育ハ如何ニアルベキカト云フコトニ付テ、政府御當局ノ御所見ヲ承リタイト
存ズルノデアリマス、凡ソ教育ハ國體ノ本義ニ基ク皇國民ノ鍛成ヲ基礎トシ
テ、其上ニ德育、知育、體育ヲ施スノデアリマシテ、其ノ方向ハ肇國ノ精神ニ淵源スル國體發展ノ聖業ニ翼賛シ奉ル臣道實踐ノ物心兩面ニ瓦ル力ヲ培フコトデアルト私ハ信ズルノデアリマス、其ノ事タルヤ平戰兩時ヲ通ジテ變ルコトハナイノデアリマスガ、殊ニ戰時下ニ於キマシテハ、此ノ本質的教育觀ノ外ニ、勿論戰時ニ於キマシテハ戰爭手段ニ依ツテ國體發展ヲ期スルノデアリマスカラ、教育モ之ニ伴ツテ、之ニ即應シテ行カネバナラスト云フコトハ今更申上ゲルマデモアリマセヌ、ソコニデ戰局ノ段階ニ依ツテ幾ラカ創意ハアルニ致シマシテモ、學徒ガ此ノ戰爭手段ニ即應シテ戰フ部署ト云フモノハ、或ハ兵役ニ編入セラレテ第一線ニ赴キ、或ハ豫備軍トシテノ訓練ヲナス面モアリマスルガ、ソレハ軍隊教育ニ入リマスノデ、是ハ先づ別ト致シマシテ、一般學籍ニアル學徒トシテノ職域、戰フ部署ト云フモノハ、主トシテ生產陣ト國土防衛陣ダト私ハ思フノデアリマス、ソコニ戦争ニ依ル國體發展ニ即應スル教育ニ付キマシテモ、ドウシテモ此ノ生產、國土防衛ト云フコトニ敢闘スル、即チ廣ク言へバ勤勞デアリマス、其ノ勤勞ヲ切離シテハ教育體制モ考へ得ラレナインデハナイカト考ヘラレマスルノデ、私ハ教育體制ノ確立ニ關聯スル勤勞問題ヲ採上げテ御同ヒ致シ

タイト思ヒマス、勿論勤勞ノ中ニハ知的勤勞モアルシ、肉體的勤勞モアル、即チ科學ノ振興ト云フコトモ私ハ勤勞ノ中ニ入レテ解釋ヲシテ居ルノデアリマス、ソコデ御伺ヒ致シタインデアリマスガ、皇軍トシテ、第一線ニ立ツテ國體發展ノ爲ニ翼賛シ奉ルコトモ、銃後ニ於テ生產陣、國土防衛陣ニ編入セラレテ、國體發展ニ赴ク者モ總テアリマスノ天業ニ翼賛シ奉ル道デアル、所ガソレヲ引ツ張ツテ行ク教育ナリ、其ノ編成ヲシテ居ル組織ナリガ變ツテ居ル、私ハ或ル責任アル軍當局ノ話ヲ聞イタノデアリマスガ、特攻隊ガ出陣ヲスルノデ壯行ノ辭ヲ述べタイト思ツテ師團長ニ相談ヲ致シマシタ所ガ、今度赴ク特攻隊ト稱スルモノダケガ特攻隊デハナイ、我々ノ師團ハ總テ特攻隊デアル、是ハ順番ガアルカラ、先行ク、遲レルト云フコトハアルケレドモ、我々ノ師團ハ總テ特攻隊ナノデアル、特ニ今度赴ク兵隊ノミガ特攻隊デハナイノデアルカラ、差別ヲシテ貰ハヌデモ宜イト云フ意味ノ話ヲ聞イタノデアリマス、尙又戦争三年目ノ段階ニ入リマスト、從來ノ戦争ノ経験カラ見テモ、今度ノ戦況カラ見テモ、此ノ三年目ト云フノハ新兵器出現ノ時代ト思ハレル「アメリカ」デハ「ビ一一九ガ出現シ、「ドイツ」デハ「ヴィー」一、二ト云フモノガ出テ敵ヲ脅威シテ居ル、日本デハ物ノ新兵器ト云フモノハ、今戦力トシテ餘り力ヲ現ハシテ居ナヤウデアリマスガ、精神的ナ新兵器、人トシテノ新兵器、特攻隊ガ新兵器ダト云フ話ヲ聞イテ感無量

ノモノガアツタノデアリマス、我々シテ必死必殺ノ體當リ的敢闘ヲナシテ行クコトハ、既ニ御承知ノ通りデアリマスガ、銃後ノ生産人モ同ジク國體發展ノ聖業ニ寶賛シ奉ル尊イ職責ヲ有シナガラ、マダ體當リ特攻隊のナ敢闘ガ目覺シク現ハレ居ナイト云フ所ニ、私ハ聊カ矛盾ヲ感ジ、何カソコニ同ジ血液ト同ジ魂ヲ持ツ者ガ、何故ニ前線ト銃後デ區別ガアルデアラウカト云フコトヲ不思議ニ感ジテ居ル一人デアリマス、何カ同ジ魂、同ジ血液ノ發動ヲ、鈍ラシテ居ルモノガ銃後ニアルノデナイカ、斯ウ云フコトヲ考ヘタノデアリマスガ、殊ニ學徒ヲ指導セラレル文部當局、竝ニ生産關係ニアル所ノ政府御當局ノ之ニ關スル御所見ヲ先ツ最期ニ承リタイ、是ハ普通ノ人デモ考へ付クコトデアリマスルカラ、先づ御答辯ノ御用意ハ出來テ居ルト思フノデアリマスルガ、是ハ相當重要ナコトデアリマスカラ、若シ即答ガ出來マセヌラバ、御準備ノ上明日ノ此ノ委員會ノ壁頭デモ構ヒマセヌガ、出來ルダケノコトハ御答辯願ツテ、アトハ又後ニ讓ツテモ宜ノノデアリマス、一應御所見ヲ承リタイ

リマス主ナル點ヲ申上ゲテ見タイト申
ヒマス、先ヅ第一ト致シマシテハ國民
思想ノ純健ヲ堅持スル、サウシテ精神
不滅、必勝不敗ノ信念ニ徹セシム、
サウシテ大東亞指導民族ノ教育教化ニ
遺憾ナキヲ期シマシテ、天壤無窮ノ旨
運ヲ扶翼シ奉リタイト考ヘルノデアリ
マス、第二ニハ皇國無窮ノ根基ニ培ニ
マシテ、國家緊急ノ要請ニ即應致シ
スル教育訓練ノ體制ヲ整備強化致シ
サウシテ事上鍛磨或ハ行政一體ノ皇國
民鍛成ニ遺憾ナキヲ期ス所存デアリマ
ス、第三ニハ科學技術ノ劃期的增强共
ニ結合國力ノ飛躍的增强ヲ期スル督
ニ、研究機關ノ整備擴充、並ニ國家緊
要ノ研究ノ急速ナル進展ヲ圖リタイ
考ヘルノデアリマス、斯ク致シマシテ
ソニニ撫ツテ居リマスル學徒ノ心ヨリ
湧キ出ヅル忠誠心ニ依リマシテ、總チ
ノ者ガ特攻精神ヲ持チ、サウシテ此ノ
戰局ノ打開ニ進ムト云フ方針ヲ以チマ
シテ、今日デモ其ノ指導ニ當ツテ居ル
次第デアリマス、一應御説明申上ゲマ
ス

此處、ツイ 国力高テ、ノリ、ソノト宋鳥趾、國、マヒリ至ニ 州氏忠

五四

ノ問題トシマシテ、茲ニ今マデニナ
所謂特攻精神ト申シマスカ、左様ニ口
輕ニ申スコトサヘモ憚ルベキ、サウ云
フ滅私奉公ノ氣持デ銃後ノ生産ニ携ハ
ル、斯ウ云フ風ナ意味ニ於キマシテ考
ヘテ行カナケレバナラヌノデアリマス
ルガ、ソレニ付キマシテ具體的ノ方策
小致シマシテハ、一般的ノ抽象的ナ指
導ハ致シテ居リマスガ、特ニ最近ノ情
勢カラ見マスルト、御承知ノ如ク敵ニ
狙ハレテ居ル工場、斯ウ云フモノニ付
キマシテハ、特ニサウ云フ風ナ意味ニ
於キマシテ、勤勞者ノ精神ヲシツカ
リト生産ニ結ビ付ケサセル、サウ云フ
意味ニ於キマシテノ必要性ガ特ニ顯著
デアリマスノデ、特ニ敵機ニ襲撃ヲ受
ケマスル工場ニ付キマシテハ、其ノ職
場ニ於ケル色々ナ施設及び其ノ身分ノ
處遇、特ニ不幸ニシテ敵機ノ犠牲トナ
ツタ者等ノ爾後ニ於ケル特別ノ處遇ト
云フヤウナモノニ付キマシテモ、政府
トシテ相當意ヒ切ツタ方策ヲ實施スル
必要ガアルノデハナイカ、斯ウ云フ意
味ニ於キマシテ色々具體的ナ案ニ付テ
研究致シテ居リマス

○仲井間委員 只今軍需省當局ノ勤労能率ノ昂揚セラレル方向ニ向シテ、色々ノ施策ヲ講ジツ、アルト云フ御熱意私ハ此ノ勤労生産ノ能率ノ上ルヤウナ策ヲ施スコトハ最モ必要ナコトデアリマスガ、其ノ昂揚スル力沸イテ來ル精神デアリマス、只今最後ニ御伺ヒ致シマシタ皇軍トシテハ第一線ニ立ツ特攻的人精神ニ燃エ上ル、内カラ沸イテ來ル、施設ヲシタカラ沸イテ來ルノヂヤナイ、施設ハ勿論必要デアリマスガ、其ノ施設ト相俟ツテ内カラ燃エ上ツテ來ル鬪魂ヲ培フ、斯ウ云フコトハ教育省デアル文部省ノミナラズ、勞務ニ關係ガアリ、或ハ生産ニ關係ガアル人ノヤル仕事デアル、人ノヤル仕事ハ魂ガヤルノデアリマスカラ、政府全體トシテ其ノ廣イ意味ノ教育的見地カラ人ヲ取扱ツテ行カナケレバナラスト思フノデアリマスガ、ドウウ其ノ點ヲ一つ御施策ト同時ニ強ク盛ラレンコトヲ希望スルノデアリマス

「ソマーラ」ヲ握リ、鍼ヲ持ツテ鍼ツテ、
勝ツ爲ニハ學校ノ閉鎖モ已ムヲ得ナイ
デハナイカ、斯ウ云フ聲ガ能ク聞カレルノデ
アリマス、又斯ウ云フ人々ハ何ガ何デモ
勝抜カネバナラヌト言フ、其ノ熟意ニ對
シマシテハ十分ニ了解ガ出來ルノデアリ
マスルガ、且ツ又戦局ノ推移ニ依リマシ
テハ、事實上校舎ト云フモノガ閉鎖セラ
レル事態モ生ズルデアリマセウケレド
モ、斯ウ云フ考ヘ方ハ主トシテ工場經營
者側ニアルト云フ話アリマスルガ、
是ハ單ニ學校ヲ形ダケニ見、勞務ヲ形
ト見テ、勞務ノ給源トシテノミ取扱ツ
テ、サウンシテ差當リ利用セラレル技術
習得以外ハ、教育ハ戰後ノ文化ノ昂揚
ノ準備ト考ヘ居ル、斯ウ云フ傾向ガ
アリハシナイカト思ハレル節ガアルノ
デアリマス、教育ト云フモノガ、直チ
ニ今日鬪フ魂ヲ培フ、即チ皇國ノ臣民
トシテノ鍊成ガ如何ニ思忠報國ノ士氣
ヲ鼓舞シ、又能率ノ増進ニ寄與スルカ
ノ點ヲ輕ク見タ憾ミガアルノデアリマ
ス、曩ニモ申上げマシタヤウニ、第一
線ノ特攻隊ト同ジ魂ト血液ヲ持ツ同胞
ガ、何故ニ銃後ニ華々シキ一線ノヤウ
ニ起ツテ來ナイカト云フコトハ非常ニ
私ハ考ヘセラレル、即チ是ハ行學一
體デアル、詰リ此ノ行學一體ノ途ニ副
フテ居ナカツタ、從來ノ教育ノ罪ナノ
デアル、一面ニ於テ今ノ教育指導ノ罪
デアリ、一面ニ於テハ工場側ニ於ケル
所ノ教育的ナ雰圍氣ノ擧ラナイコト、
否寧ロ工場内ニ於テハ彼等學徒ヨシテ
工場内ノ弊風ニ怨憤ヲ抱カシメテ、燃
エテ來ル懲意ニ水ヲ打掛けテ居ルヤウ

ナ實情デ、此ノ特攻精神ヲ屏息セシメテ居ルノデハナイカト思ハレルヤウナ點ガアルノデアリマス、ドウシテモ私ハ此ノ教育ト力鍊成トカ云フコトハ、セシメテハナラヌト思フノデアリマス、今前線ト銃後トノ間ノ矛盾ヲ感ジタコトヲ御話申上ゲマシタガ、勿論之ニ付キマシテハ、ソレ以外ニモ原因ガアリマセウ、軍人ハ、大元帥陛下ノ股肱トシテ、直チニ、陛下結ビ合サレタ寶三尊イ精神ニ燃エテ居ルノデアリマス、同ジ皇國發展ニ翼賛シテ居ル銃後ノ工具員、或ハ學徒モ、實ハ國家ト繋ソツ居ルノデアリマスルガ、其ノ直結スル直接ノ面ガ工場主トカ、工場ノ監督ニ繋ツテ居ル爲ニ、其ノ結付キガ、ドウモ自分ノ働きガ工場主ノ爲ニ、工場經營者ノ爲ニ自分ハ働くテ居ルノダト云フヤウナ感ジガナインデモナイ、其ノ考へ方ヲドウシテモ改メサセナケレバナラヌ、實際ノ話ハ、此處ニ餘り面白クナイコトヲ申上ゲテ速記ニ取ルノモ快クアリマセヌカラ、止メタイト思ヒマスガ、如何ニ軍隊教育ニ致シマシテモ、上官ガ自分ノ部下ヲ見ルコト兄弟ノ如クセゼニ、搾り上ゲテ自分ノ利益ノミニ渡々トシテ、自分ノ一身上ノコトバカリ考ヘテ居ツテハ、部下ノ兵士ガ本當ニ魂ヲ打明ケテ働くコトハ出來ナイ、工場ニ於テ其ノ魂ガ燃エナイ理由由ノ一斑ハ、ドウモ工場經營者、或ハ工場監督デアルトカ、或ハ工場側ノ課長デアルト云フモノガ、ドウモ此ノ仕事ハ國家ノ爲ニヤツテ居ルノカ、自分ノ金儲ケノ爲ニヤツテ居ルノカ、工員學徒ニ對スル態度ガ實ニ宜クナイト云フヤウナ聲ガ能ク聞カレルノデアリマス、ソ

コデ私ハ學徒ニ對スル國民的指導教育ト云フモノハ、是ハ學校教育トハ別デアリマスルガ、斯ウ云フ露園氣ニ工場ヲシ教育的露園氣ヲ醸成セシメテ行ク必要ガアルト信ズルノデアリマス、此ノ點ニ關シマシテ教育ト勤勞トハ離スベカラザルモノデアル、教育ハ瞬時モ如何ニ苛烈ナル決戦ガ纏ケラレ、國ハ焦土ト化シ、學校ハ燒ケテモ、田園デモ、工場デモ、學校ニ代ル教育訓練ガ出來ルモノデアル、天地人ノ存スル限り教育ハ繼續スベキモノデアル、斯ウ云フ考ヘ方ヲ、私ハ持ツテ居ルノデアリマス、世間デモ動モスルト、教育ハ一時中止シテ宜シイ、敗ケテシマヘバ教育モ何モナイト云フヤウナ教育觀ヲソレニ對シマシテ、此ノ迷ツテ居ル國民ヲ指導シ、迷ツテ居ル學校、或ハ學徒、殊ニ中等學校デモ何處デモ學徒ガ工場へ行ツテ居ル向キモアルノデアリマス、ソレニ片隅ニ机ヲ前ニシテ、何等ノ權威モナシニ教育ヲ施ス、唯人數ガ揃レリトスル考ヘ方、指導方針ハ鬪魂モ何モアツタモノデハナイ、私ハ此ノ學校當局、學徒、世間一般ノ人々ニ、其ノ迷ツテ居ル所ヲ此ノ議會ヲ通ジ、委員會ヲ通ジテハツキリト御指導ノ言葉ヲ賜ハリタイト思フノデアリマス、此ノコドニ付テ御所見ヲ承リタ依テアリマス、今日ノ戰爭ノ段階ガ遂ニ學徒モ第三者トシテ戰争ヲ傍観シテ居ルコトヲ許サレナイ狀況ニナリマシタコトモ一ツデアリマシテ、又學徒ガ若キ血ガ躍ツテ、自分自ラガ進シ得戦爭ノ一役ヲ負ツテ出ルト云フコトモ一ツ

デアリマス、現實ニ今日ハ學徒ガ到ル處ノ工場ニ出勤シテ居リマス、ソシテ是等ノ學徒ハ、洵ニ純眞デアリマシテ、一方ニ於キマシテ、今マデ學級デ授ケラレマシタル知識ヲ工場ニ於テ活用シテ、非常ナ效果ヲ擧ゲタモノモ相當アリマス、又其ノ體驗ヨリ致シマシテ、自分ノ魂ヲ鍛成スル、茲ニ行學一體ノ實ガ舉ツテ、今日ノ學徒ハ何處ノ工場ヘ參リマシテモ、一般工員ノ模範トモナリ、又一般工員ノ改善ニモ資スル所ガ多イノデアリマス、是等ノ學徒ガ、若シモ學業ヲ全然廢メテシマツテ、其ノ後ガドウナルカト申シマスレバ、一般學徒トシテ今日、良イト云フコトハ、ドウ云フコトデ學徒ガ良イノカト言ヘバ、先般豫算總會デモ申上げマシタル通り、學徒ハ教養ガアルカラ良イノデアリマス、其ノ教養ガナクナツテシマツタナラバ、今日ノ學徒トシテノ効キハ、非常ニ低下サレルデアラウト考ヘマス、隨テ一方ニ於キマシテハ、生産ニ携ハル、一方ニ於キマシテハ、飽クマデモ教養ヲ進メテ行く、此ノ態度ハ將來ニ於テモ失フコトハ出來ナイノデアリマス、又實際各工場ニ付テ見マシテモ、學徒が學校デ教ハツタコトヲ實際ノ上ニ働カシテ、活カシテ使ツタ實例ハ、非常ニ多イノデアリマス、餘談ニナルノカモ知レマセヌガ、其ノ一、二ヲ申上げテ見マシテモ、例ヘバ、大同製鋼ノ名古屋工場ニ於キマシテ、此處ニ參ツテ居ル學徒ハ高熱作業ニ從事致シマシテ、非常ニ敢闘シタ結果ガ、一般工員ニ對シテ多大ナ感銘ヲ與ヘテ職場ノ土氣ヲ昂揚致シマシタ、ソシテ一ノ丁、員ニ對シテ多大ナ感銘ヲ與ヘテ職場ノ土氣ヲ昂揚致シマシタ、ソシテ一般ノ惰氣ヲ拂ツテ、學徒ハ一般工員カラ非常ニ敬愛サレルヤウニナツタト云フ

コトモアリマス、又名古屋ノ陸軍造兵廠ニ參ツテ居ル松本高等學校ノ學徒ハ、與ヘラタ生産目標ヲ突破シテ居リマス、又岐阜縣ノ、是ハ高等女學校ノ生徒デスガ、是等ノモノガ、普通員ノ一・〇二位能率ヲ擧ゲタモノニ對シテ、僅カノ間ニ一・五ト云フ能率ノ擧ゲタト云フ實例モアリマス、又自分ノ學校デ教ハリマシタ技術ヲ生カシテ、創意工夫ニ依ツテ其處ノ工場ノ能率ヲ數倍ニシタト云フ事例モドツナリアルノデアリマス、數へ立テ、見マスルト學徒ノ功績ハ、生産回ノ上ニ於テモ非常ナ大キナモノガアリマスルガ、ソレハ要スルニ教養ガモノヲ言ウタノデアリマス、今後ニ於テモ、若シ學徒ノ持持ヲ失ハシメルヤウナコトガアリマシタナラバ、生産ノ能率ハ低下致シマシテ、今日持離サレテ居リマスル此ノ學徒ノ仕事ハ、非常ニ低下スルコトハ、是ハモウ當然ナコトデアラウト思ヒマス、仍テ私共ハ飽クマデモ忙シイ中ニ作レルダケノ時間ヲ作ラシテ、學徒ニ教養ヲ與ヘテヤラバナラヌ、又此ノ若イ學徒ハ日本ノ将来ヲ背負ツテ立ツタ大キナ使命デアリマス、隨テ將來ニ於テドソナニ戦争ガ苛烈ニナリマシテリマスガ、其ノ將來ヲ背負ツテ立ツ所ノ中堅ニナル人間ヲ、養成スルコトガ非常然デアリマスガ、同時ニ教育ト云フモニ對シテハ、出來ルダケノ時間ヲ割テ教養ヲ進メテ參リタイト考ヘテ居ルヲ固ク把持セシメナガラ仕事ニ當ル次第ニアリマス

コトガ、如何ニ能率ガ擧ツテ來ルカト。云フコトヲ實例ヲ示サレテ御答辯ニナリマシタコトヲ、私ハ讀承致シマシタ、ドウゾ又格段ノ御努力ヲ御願ヒスルモノデアリマス、尙ホ此ノ際文部省始メ色々ノ通牒アダリニ行學一體デアルト力、勤勞卽教育デアルトカ云フ文句ヲヨク伺シテ居リマス、新聞アタリデモヨク其ノ文句ガ出ルノデアリマスルシ、學徒アタリニ接シマシテ、其ノ言葉ヲ用ヒテ指導セラレテ居ルコトニ付テ、ビツタリシテ來ナイト云フノデアリマス、ビツタリ來ナケレバ何ニモナラナイ、作文ニ終ルノデアリマシテ、ソレヲビツタリ來セナケレバナラヌ、ソユデ私ハドウシテモ之ヲ解釋致シタトイ思ヒマシテ、自分ノ愚見デテシツカリト認識セシメテ貰ヒタイトイアリマスケレドモ、簡單ニ申上ゲマシテ、尙ホ又文部省局カラ此ノ點モ講議外ノ總デノ國民ニ、此ノ委員會ヲ通じ思ヒマス、私ハ行學一體ト云フノハドウ云フコトヲ言フノデアルカ、勤勞卽教育ト云フノハ、何ヲ意味シテ居ルノカ、行學ノ學ハ學ブコトデアリマズガ、私ノ愚力ナ體驗カラ見マシテ、我ガ本當ニ學ンダコト、魂ニ學ンダコトハ自然ニ行ヒタイノデアリマス、ソレカラ見マシテ、私ハ本當ニ魂ニ飮ケ込シデ學ンダコトハ、之ヲ具現シタイ、之ヲ實行ニ移シタイ、之ヲ行ヒタ伊ト云フノガ人間ノ本能デハナイカト思フノデアリマス、何モ邪魔スルモノガナケレバ、自分で本當ニ魂ニ食ヒ入ツタ學ビハ自ラ發シテ行トナルト云ガ行ニ現ハレテ來ナイカラ現ハセヨト

言ツテ教ヘテ居ル、現ハレルノガ本當デアルノニ、現ハレナイ部面ガアル、ナゼカ、私ハ是ハ兩方ニ缺陷ガアルカラ現ハレナイ、學ブ方面ニ於テハ魂ニ融合シナ、魂ニ融ケ込マナイ所ノ學ビデアルナラバ、自然ニ行ヒタイト云フ感ジハ起ツテ來ナイ、ダカラシテ「ウシテモ學ブト云フ方面ニ魂ガ食ヒ入ル學ビヲ先ヅサセル、魂ニ食ヒ入ル學ビヲ假ニシテ居ツテモ、又今度ハ行ニ現ハレル時ニ邪魔ニナルモノガアル、其ノ魂ヲ學ブ以外ノ何モノカガ邪魔ヲシテ行ニ移ス躍動ヲ阻碍シテ居ルモノガアルノデハナイカ、詰リ學ブハ、今ノ學校教育カラ言ヘバ學校ノ方面、行ハ今ノ勤勞カラ言ヘバ工場方面、ドツチモ今マデハ魂ノ入ラナイ學ビヲヤリ、行ラヤル工場ノ方デモ邪魔シテ居ルカラ、不徹底デアリマス、軍隊ノ方面ハ本當ニ魂ニ食ヒ入ツテ行ク學ビヲサシテ居リマス、又行ニ移ル特攻行動モ邪魔スルモノガナイ、本當ニ我が國體ニ歸一スル精神ガ終始一貫現ハレテ居ル、此ノ銃後ニ於ケル學ビト行ガ、學ビノ方面ニモ、行ノ方面ニモ邪魔ガアル、之ヲ取除カナケレバナラヌ、之ヲ本當ニ自然ノ儘ニ、本能ノ儘ニ進マセル體制、秩序ト云フモノヲ學ビノ方ニモ工場ノ方ニモ整備シナケレバイカヌ、是ハ根本的ノ問題デス、之ヲ考ヘ付カズ、ヤラズニ置イテ、他ノ方ヲ幾ラヤツテ見タ所デ中々旨ク行クマイト考ヘル、サウシテ私ハ進ソデ學シテ行フ、行ツテ又學ブ、學ソデ又行フ、斯ウ云フコトヲ反復スル中ニ物ヲ創造シテ行ク、ソレハ丁度我々が飯ヲ食ヌテ排泄スル如ク循環スル、學ソデ行ヒ、行ツテ學ビ、ソレヲ何遍モ反復シテ眞理ノ體得ヲ得ル、物ヲ創造スルト云フ

面ニ是ガ發展シテ行クノデス、デアル
カラ學ビト行ト一體タルベク、一ツノ
循環整理デアツテ、ソコヲ阻礙シナイ
ヤウニ自然ノ儘ニ之ヲ導キ行ク體制ラ
ドウシテモ作ラナケレバナラヌ、是方日
モノモ、大體之ト同ジデアリマシテ、
本的文化ノ創成デアル、詰リ物ヲ作り
始メル創造性デアルト私ハ信シテ居ル
モノニアリマス、又勤勞卽教育ト云フ
モノモ、大體之ト同ジデアリマシテ、
學ビガ表、行ガソレニ付ク裏トスルナ
ラバ、學ビハ教育ノ表デアツテ、勤勞
ハ裏、勤勞ハ學ソダ後ノ行デアツテ、
茲ニ高貴性ガ現ハレテ來ルト私ハ思ヒ
マス、デアルカラ勤勞ト云フ行ニ依ツ
テ學ビト云フモノヲ生カシ、又學ビニ
依ツテ行ヲ創造スル、生ソデ來ル、
サウシテ勤勞意欲ノ昂揚ヲ自然ニ進
メテ來ルコトガ出來タ來ル譯デアリマ
ス、今日日本の勤勞觀ナドト云フコ
トヲ能ク言ハレテ居リマスガ、是ハ
即チ學ブコトニ依ツテ、行ヲ創造ス
ル、行ヲ生ム創造性ノモノデアリマス
、是ガ其ノ本質ヲナスノデアリマス
カラ、勤勞スルニ付テモ、其ノ行動
ニ付テ蔭日向ガナイ、代價ガアルカナ
イカト云フコトハ問題デハナイ、學ブ
コトヲ具現シ、形ニ現ハス欲求ノ迸
デアリマスカラ、蔭日向ガナイ、又代
價ガソコニ必要デナク、代價ニ左右サ
レ譯デモナイ、是ガ本質デアル、所
ガ何故サウ云フヤウナ本質ヲ持ツテ居
ルニ拘ラズ、歪曲ナレテ曲リ曲ツテ勤
勞ガ商品化シ、何カ代價ガナケレバ勤
勞シナ、行ヲシナ、學ブコトサヘ
シ商品化シ、行モ商品化シテ居ル、是
ハ即チ本質的ナ英國勤勞觀カラ脱却
シ、「アメリカ」ノ物質萬能主義ノ物的
ナ商品勤勞觀デアル、私ハ此ノ日本ノ
本質的ナモノノヨリ英國勤勞觀ト言ヒ、「ア

メリカノ勤労觀ハ商品勤労觀ト言フ、ソコマデ彙ニ或ル軍部當局ノ御話ガアリマシタ通リニ、他ノ交戰國デハ物ニ忘レテシマツテ商品勤労觀ニ捉ハレテシマツタナラバ、ドウ云フ結果ニナルデアリマセウカ、「アメリカ」ノ弟子ト、云フ外ハナイ、「アメリカ」ハ澤山物量ヲ持ツテ居ル、日本ハ物量ハ少イ、其ノ少イ物量ノ日本ガ同ジ「アメリカ」ノ商品勤労觀ニ戰ツテ行ツタノデハ勝ツコハナイ、日本ガ勝ツノハ、魂ニ依ツテ、人ニ依ツテ勝ツテ行ク、ソレヲ商品勤労觀ニ依ツテ戰ツテ行ツタナラバ向フニ負ケルガ當然デアル、此ノ勤労即教育ノ徹底ヲ是非何カノ方法デ國民ニ徹底シテ貴ヒタイ、ソレガ爲ニハ學ブコトト工場ト雙方ガ是非刷新サレナケレバナラヌト考ヘテ居リマス、此ノ點ニ付テ政府ノ御所見ヲ承リタインデアリマス。

○今井政府委員 只今ノ御説、大體私共モサウ考ヘテ居リマス、唯行學一體ノ實ガドウモピツタリシナインデハナイカト云フ點ニ付キマシテハ、私共モ或ル程度其ノ通りダト思ヒマス、要スルニ是等ノコトハ受入レ側ノ今マデ理解ノ足ラナカツタコトモ其ノ一ツデアツタデアリマセウ、又其ノ指導者ニ適當ナ者ヲ得ナカツタト云フコトモ其ノシテ厚生省、軍需省ノ協力ヲ得マシ

テ、中等學校ノ教職員竝ニ受入レ側指導者ノ約一千名ノ者ヲ全國四箇所ノ國民勤勞訓練所ニ集メマシテ、六日間之訓練致シマシタ、又大學高等専門學校、師範學校ノ教職員五百名ニ對シマシテハ、各軍需監理部管區毎ニ工場事業場等ノ現場ニ於キマンシテ、一日間指導者ニ先ツ理解ヲ與ヘ、サウシテ學徒ガ本當ニ行學一體ノ實ヲ擧ゲルコトノ出來ルヤウニ、今日工夫ヲ致シテ居ル次第アリマス、更ニ一段ノ工夫ヲ凝ラシマシテ、御説ノヤウナコトガモツト的確ニ行ハレルヤウニ努力致シタマス

ク文句ニ使ツテ指導ヲシテ居リマス
ガ、本當ノ必勝ノ信念ハ必ズ勝ツノダ
日本ガ今斯ウ云フ樂觀ヲ許サナイ戰局
ニ當面シテ居ルケレドモ、最後ノ勝利
ハ必ズ日本ニアルノダ、是ハ何處カラ
來ルノカ、此ノ點ハ此處ニ満足ナ御答
辯ハ得ラレナイニシテモ、何カ一ツ國
民ニハツキリサセテ置ク必要ガアルト
思フ、誰ガ聞イテモ、成程是テ日本ハ
勝ツノダ、デアルカラ國民ハ斯ウ云フ
心掛ヲスレバ必ズ勝ツノダ、此ノ必勝
ノ信念ヲ堅持スルコトガ總テノ能率ノ
基礎ニナルト云フナラバ、此ノ必勝ノ
勝ツノダ、デアルカラ國民ニ植付ケテ行ク
信念ヲ把握サセル指導ガドウシテモ必
要ダト云フコトニナリマスガ、何處カラ
テ之ヲヤリマスカ、政府ノドレ見テ
モ、必勝ノ信念ヲ國民ニ植付ケテ行ク
アリマセウカ、簡單テモ宜ノイノデス
ガ、其ノ必勝ノ信念ノ得ドコロニ付テ
○近藤政樹委員 只今仲井間委員カラ
必勝ノ信念ヲ國民ニ徹底セシムル施設
ヲ何カヤツテ居ルカドウカ、斯ウ云フ
御尋不ガアツタヤウニ思フノデアリマ
ス、洵ニ御尤モナ御質問デアリマシ
テ、我々今日ノ大東亜戰爭ヲ戰ツテ居
ル其ノ心構ヘノ根本ハ、天壤無窮ノ神
州ヲ護持スルト云フコトニアルノデア
リマス、又之ニハ詔書ニハ仰セラレテ
居リマス通り、皇祖皇宗ノ神靈上ニ在
リ、又其ノ皇祖ノ神佑天助ヲ得ラレ
テ、萬世一系今日マデ續イテ來テ居ル
我ガ帝國ノコトデアリ、又其ノ帝國ニ
生ヲ享ケテ居リマスル日本人デアリマ
スガ故ニ、此ノ皇國傳統ノ精神及ビ其
ノ精神ニ依ツテ鍛ヘラレタ我々人々努

力、我々ノ此ノ信念ニ基ク行ト云フモ
ノガ——先程來行學一體ノ御話アリ
マシタガ、此ノ信念ガアリマスト同時
ニ、此ノ信念ニ基ク所ノ知行合一ノ生
活ガ振起セラレルナラバ、必ズ勝ツベ
キモノデアツテ、必勝不敗デアルト思
フノデアリマス、今日彼此レ心配ヲシ
テ居ル人ガヨク我々ノ所ニモ來マス
ガ、鬼モスルトサウ云フコトハ心配ハ
シテ居ルガ、其ノ人ガ皇國ノ傳統ノ精
神及ビ我々ノ傳統ノ生活ヲ行ジテ居
ズニ、行ズルノ放ツテ置イテ心配シテ
居ルノガ相當ニアルト云フコトガ、一
番今日恐ルベキトダラウト思ヒマ
ス、之ヲナカラシムル爲ニ何カ必勝ノ
信念ヲ確立スル施策ヲ講ジテ居ルカト
云フ御話アリマシタガ、之ヲ大マカ
ニ申上ゲルト、先程來申上タヤウニ、
我ガ國ノ教育全般ガ寧ロソレデ以テ實
イテ來テ居ルト申シテ宜シイノデアリ
マス、ソレアルガ故ニ、此ノ確信ト此
ノ使命ガ十分ニ認識サレテ居リマスガ
故ニ、何處ニ持ツテ行キマシテモ、今日
學徒ガ最モ成績ヲ上げテ居ル所以デア
リ、使命ガ十分ニ認識サレテ居リマスガ
御話ガアリマシタガ、學徒ガ今日良イモ
ト云フノハ、教養ガアルカラデアル、
其ノ教養トハ何ゾヤト云ヒマスト、根
本ニ於テ我ガ皇國ノ使命、我ガ皇國ノ
神聖ナル所以ガ諒解サレテ居ル、此ノ
神聖ナル神州ヲ護持スルト云フ、熟意ガア
リマスガ故ニ、凡ユル方面ニ向ツテ
不惜生命デ努力スルコトガ出來ルト私
ハ思ヒマス、若シ此ノ點ガ不明瞭デアリ
リマスナラバ、先程御心配ノヤウナ所
謂商品勤勞ニナツテシマフノデアリマ
ス、私ハ學徒ガ最モ勤勞成績ガ良イモ
云フノハ何ノ爲デアルカト云フト、此
ノ神洲必勝ト云フ信念ガ教育ノ根本ト

シテ植付ケラレテ居ルカラダト思フノ
デアリマス、隨ヒマシテ所謂學校ノ教
育全般ハサウデアリマスガ、先程來御話
ノヤウニ是ハ學校バカリデナク、社會
教育ニ於テモ、或ハ勤勞教育ニ於テモ、
サウ云フコトヲヤラホバナラヌコトヲ
我々ハ痛切ニ感ジテ居ルモノデアリマ
スカラ、最近ハ御承知ノヤウニ、一
方ニハ社會教育ノ大キナ方面ヲ擔当シ
テ居リマス宗教家ノ大同團結デアリマ
マス大日本宗教報國會ト云フモノヲ作
リマシテ、是等ガ皇國ノ使命ヲ十分ニ
自覺シ、本當ニ人間ガ惑ヒヲ去ツテ所
謂妄想ナク使命ニ邁進スルヤウニ國民
教化ニ努力スルト云フコトデ骨ヲ折ツ
テ居リマスシ、最近全國ニ諸々アリマ
シタ教化團體、文化團體ナドヲ結成シ
マシタ大日本教化報國會ト云フモノニ
依ツテ、慾自分ノヤツテ居ル仕事ガ本
當ニ神州護持、必勝不敗ノ行デアルト
云フコトヲ自覺シ、國民ニ之ヲ徹底サ
セ、演劇家ハ演劇ヲ通シ、音樂家ハ音
樂ヲ通シテ教化スルヤウニ骨ヲ折ツテ
居リマス、尙ホ勤勞者ニ於テモ先程來
仲井間委員ヨリ御心配ニナリマシタ
セ、何トシテ學徒ニ矜持ヲ持タセマ
スト共ニ、一方勤勞者ニモ矜持ヲ持タ
セ、神州ノ勤勞者タルコトヲ自覺セシ
メルコトニ依ツテ、能率ヲ上げル外ニ
ナイト信ジテ居リマスガ故ニ、最近ハ
皇道勤勞學級ナルモノヲ設ケ、或ハ都
道府縣ニ金ヲ交付シ或ハ勤勞者教育中
央會等ヲ通ジテ各工場ノ中心幹部ニ皇
道勤勞學級ニ依ツテ神州護持必勝不敗
ノ信念ヲ植付ケルコトニ致シテ居リマ
ス、一方ニハ各府縣ヲ通じ勤勞學級ナ
ルモノヲ設ケ、大衆勤勞者一般ニモ皇
國ノ使命、必勝不敗ノ行ヲ勧メルヤウ
ニ努力致シテ居リマス、尙ホ家庭教育

方面ヲ通ジテ必勝不敗ノ譽悟ヲ固メル爲ニ、昨年ヨリ全國ニ母親學級ヲ通シテ必勝不敗ノ信念ヲ植付ケルコトニ努力シノヲ設ケテ、都道府縣ヲ通ジ或ハ又大居リマス、尙ホ是デ満足スベキモノデハナインデアリマスカラ、慤御説テ居リマス、尙ホ是デ満足スベキモノニ致シタイト、存ジテ居リマス○仲井間委員 神州護持ノ信念ニ燃エテ是非國體ヲ護リ貢カナケレバナラヌト云フ氣魄ノアル所、又之ヲ昂揚スル御施策ニ付テ御説明ガアリマシテ、此ノ御熱心ニ對シテハ感謝ノ意ヲ表スル次第デアリマスガ、尙ホ一步ヲ進メテ考ヘタイコトハ、神州護持ノ爲ニ一緒ニ我々ハ死ナウデハナイトカ云フヤウナモノデハナクシテ、日本ノ國體、日本トシテハ此ノ必勝ノ信念ト云フモノハ、詰リ神州ヲ護持スルト云フ信念ニ燃エ上ツテ、一緒ニ生ムヲ捨テテ中心ニ歸一シテ犠牲ニナラウト云フ、サウスルト或ハ負ケルカモ知レナイト云フコトニナル、サウデハナシニ、日本ハ最後ニ於テハ必ツ勝ツンダト云フ信念ヲ與ヘルコトデアリマス、私ハ翼賛政治理會デ菊池憲原作ノ「カクテ神風ハ吹ク」ト云フ映畫ヲ見タノデアリマス、中々面白イ映畫アリマスガ、一ツ魂ガ抜ケテ居ルヤウナ感ジガシタノデアリマス、一ツ取残シタモノガアルヤウニ思ツタ、ソレハ何處カ、「アメリカ」モ勝ツンダト信ジテ居ル、私ハ「ドイツ」ノ戦争ハ正義ダト思ヒマス、正義ノ戦争ハ正義居ツタ、一般ニ正義ノ戦争ハ必ズ勝ツンダト云フコトヲ能ク世争ハ必ズ勝ツンダト云フ

「ドイツ」が最後ニ於テ勝ツコトヲ本當ニ祈念シ期待スルモノデアリマスルガ、今日ニ於テ歐洲戰爭デ「ドイツ」ガ判ヲ捺ス人ガ何人アルカ、何故判ヲ捺セヌカ、正義ノ戰争ハ必ズ勝ツト云フナラバ捺シテモ宜イデハナイカ、「ドイツ」ハ正義ノ戰争デアルカラ必ズ勝ツ、論理的ニ説明シテ來レバサウナル、ソコデ私ハ正義ナドト云フ言葉ハ用ヒナイ方ガ宜イ、神州ノ護持ナシデス、詰リ是ハ日本的必勝ノ信念ト「アメリカ」ノ必勝ノ信念トハ其ノ本質ガ違フ、又「ドイツ」ハ盟邦デアリマスカラ一寸言ヒニクノイデアリマスガ、之ヲ斯ウ信ズル根本ノ所ハ何處カラ來ルカト、一言ニシテ言ヘバ、宇宙有機體說ヲ信ズル者アリマスルカラ、最後ノ勝利ハ日本ダト今信ジテ居ル、日本ノ國體ガ宇宙ノ攝理ヲ顯現シテ居ルカラデス、宇宙ノ攝理ヲ顯現シテ日本ガ負ケテハ相濟マナイ、サウスルト宇宙ナクナル、假ニ我ニ困難ナル段階ガ來テモ、宇宙ノ攝理ヲ體現シテ居ル國ハ、詰リ陛下、國土、民族ガ一ツニナツテ居ル、日本以外ハ「ドイツ」ニシテモ戰争ハ正義デアリマセウケレドモ、國ノ成立チト云フモノガ、主體者、中心者ト國土ト國民トガ一ツデハナイ、長イ歴史ノ、神代カラノ國ノ建テ創メ、國產ミノ歴史ト云フモノガ達ツシテ居ル、彼等ニハ何れノ國ニモ宇宙ノ攝理ヲ體現シテ居ル國ハナイ、宇宙ノ攝理ヲ體現シテ居ル國ハ日本ダケデアリマス、ダカラ神州ト

云フ、ソニ必勝ノ信念が浮ビ出ル、
ダカラ此ノ戦争ハ國産ミノ戦争デス、
「アメリカ」ノ戦争ハ制覇スル、支配
スル戦争デアル、是ハ宇宙ノ攝理ト全
然反對デアルカラシテ負ケル、天理ニ
反シテ居ルカラ負ケルト私ハ信ジテ居
ル、其ノ最後ニ於テ勝ト云フ信念
ハ、ドウシテモ何カノ方法デ植シ付ケ
ナケレバナラヌ、ソニデ私ハ「カクテ
神風ハ吹ク」ト云フ映畫ヲ見テ居リマ
スガ、アノ當時マデノ日本ノ國民ハ敬
神崇祖ノ念ニ非常ニ篤イ、是ハ成程哲
學的ニ日本民俗ハ皆宇宙機械論トカ、
宇宙有機體說トカ、ソノナ高尙ナ學問
ヲ知ツテ居ル者ハナイケレドモ、本當
ノ精神カラ敬神崇祖ニ依ツテ、其ノ敬
神崇祖ノ魂ト云フモノガ既ニ宇宙有機
體說ナノデス、ソレヲ抱イテ居ル所ニ
斯クシテ神風ハ吹ク、「ダカラ其ノ當時
ノ敬神崇祖ノ念ガ如何ニ強カツタカ、
ソレガ日本ノ本流ヲナシ、且ツ其ノ根
源ヲナシテ居ルト云フコトヲ植付ケテ
ナカツタ所ニ不満ガアル、モウ少シア
レヲ入レタカツタ、農ハ田園ニ於テ鍛フ
持チ、或ハ弓ヲ削リ、武器ヲ作り、凡
ユル生産方面ニ努力シタ姿ガ現レテ居
リマスガ、此ノ宇宙有機體說ト云フモ
ノガ現レテ居ナイ、敬神崇祖ノ念ガ現
レテ居ナイ、龜山上皇ガ身ヲ犠牲ニ
シテ國難ニ殉ズルト云フ御祈リヲサレ
タケレドモ、國民全體ガサウ云フ
龜山上皇ヲ中心トシテノ氣ニ燃エテ居タ
コトガ現レテ居ナカツタト云フコトガ
殘念デアル、私ハソニカラ考ヘタイ、
ドウゾ一ツ其ノ點ニ付テ如何デゴザイ
マセウカ

シテ、文部省ニ於キマシテモ、教育ノ根本ガ敬神崇祖デアルト云フコトハ、只今モ大聲疾呼致シテ居リ、又戰時ニ於テ最モ中心ヲ成シテ居ルノノ教育ニ於テ居ルト云フ一ツノ例ニモ、私ハ最近日本薬品工業會社ノ社長ニ會ヒシタガ、斯ウ云フコトヲ言ツテ居リマサ、ソレハ青山學院ノ生徒ガ私ノ會シタ、ソレハ青山學院ノ生徒ガ私ノ會社ニ配管サレタ、青山學院ト云フ學校ハ耶蘇教ノ學校で、其處ノ生徒デハ如何デアラウカ、殊ニア、云フ風ナヌマデ科方面ノ生徒デハ能率ガドソナモノデアラウカト心配シテ居ツタ、所方入ツタ見ルト非常ニ能率ガ上ル、殊ニ數名ノ生徒ハツイ數日後ニ入營スルマテ、學校ガ濟ソデモ尙ホ續イテ工場ニ來テ勤器ガ餘り成績ガ好イカラ、班長ニシテ居ル、ソレガドソナニ好イカト云フト、眞劍ニ努力スルノミナラズ、出來上ツタ兵器、自分ノ所デ組立テル時分ニ、全部菰ヲ掛け、繩ヲ付ケルト云フ位ニシテ、而モソレノ前ニ向ツテ拍手ヲシテ涙ヲ流シテ拜ンデ居ルト云フ狀態、其ノ傍カラ見テ居ツテモ眞劍ナ狀態、眞面目ナ此ノ青年ノ風格ニ對シテハ、誰モ右正サズニ居レヌヤウナ狀態デアル、最初ハ嘲ツテ居ツタ工員達ガ、ニ一月經チ、二月經ナスル内ニ、彼ノ感化ニ動ジテ、ドノ部屋デモ自分で作ツタ兵器ヲ最後ノ仕上ノ時分ニハ悉ク拜ニテ、出スヤウニナツタ、自分ノ工場ノ気風ト云フモノハ、ソレ以來著シイ風紀トハ、此ノ青山學院ノ數名ノ、特に立派ナ學生ノ影響デアル、是ハ會社デ

長ガ幾ラヤレト云ツテモ中々ヤルモノデヤナイ、彼等ハ實踐ニ依ツテヤツノ居ル、成程教育ト云フモノハエライエノデアルト云フコトヲ感ジタ、特ニ言シテ置キタイコトハ、是マデ鬼角蛇ウ云フ工場能率ナシカニハ文科系、沿文系ト云ツタヤウナモノヲ嘲笑ツテニツタガ、自分ガ多數ノ學徒ヲ取扱ツミ見ルト云フコトハ、寧ロ文科系ノ學生ニ最モ強イコトヲ自分ハ信ジテ居リ、ソレ故ニ又理工科系ト違ツタ所ニ文科系ヲ徹底ト云フコトハ、寧ロ文科系ノ學生ニ後世間デハ兎角文科系ハ斯ウ云フ時代ニハ要ラスト云フヤウナコトヲ言フト、學徒ノ能率ノ増進ト云フモノノアルトヲ感ジテ居ル、斯ワ云フ點カラモニテ居ラリ其處ニ現ハレテ居ルニ、ヨリ思フト、今後政黨局モ法文系ノ開徒ニ對スル見直シヲ實際社會力ラ考レドモ、サウデハナイ、教育ノ本當ニ根源ガヤハリ、又サウ云フ点カニテ居ルニ、レタコトヲ私ハ思ヒ出シマス、兎ニ免今仰セニナリマシタヤウナ心持テ、我モ教育ニ從事シテ居リ、又サウ云フ信念、サウ云フ考ヘラ普及徹底スルニトニ努力コトヲ致シテ居ルノデアリマス、ドウゾ左様御諒承願ヒタイト思ヒマス致シマスガ、八木技術院總教ガ貴族念高城君ヨリ御要求ガアリマスノデ、清當ナ機會ニ之ヲ許シタイト思ヒマスガ……

ソノハラス通商院リスコノ我用サヘ學トノク代テヨボノコノ神敏ノ店法斯一モノ

○仲間委員 原則ト云ヒマスカ、サウ云ツタモノ
ヲ本ニ致シマシテ、是カラスウ云フ御
施策、措置ヲ講セラレタ方ガ宜イノデ
ハナイカト云ツタヤウナコトニ付テ、
簡単ニ具體的ニ申上ゲテ見タイト思ヒ
マス、八木技術院總裁ガ豫算委員會ニ
オイデニナルサウデアリマシテ、其ノ
點ノ關聯質問ガアルノデ、ソレヲ先ニ
申上ゲテ置キタイト思ヒマス、刻下
ノ一、自然科學ニ致シマシテモ、人文科
學ニ致シマシテモ、技術院總裁ハ自然
科學ノ方デアリマスガ、其ノ科學要員
ヲ確保スル御對策ニ付テ御伺ヒ申上ゲ
タインデアリマス

○八木政府委員 科學要員ノ確保ト云
フコトハ、必ズシモ技術院ノ專管事項
デハゴザイマセヌノデ、養成ノ面ハ大體
文部省ノ所管ト相成ツテ居リマス、ソ
レカラ養成時代ヲ過ギタ者ハ、軍動員
トノ關係ニ於キマシテ、勞務動員トシ
テ取扱ハレテ居ル譯アリマス、ソコ
デ勞務動員ハ主トシテ筋肉勞働ヲ考ヘ
テオイデニナルカニ感ゼラマシテ、
技術院ノ立場ト致シマシテハ、知能動
員ト云フコトニ少シ考慮ヲ運ラシテ貢
ヒタイト云フ希望ヲ述べテ居ル狀態デ
ゴザイマス

専門學校ニ於ケル生徒ノ増募ニ依リマシテ、計劃的ノ増加養成ヲ圖ツテ居る次第デアリマス、殊ニ時局下極メテ重要ナ方面ニ付キマシテハ、學科ノ増設、講座ノ増設ヲ着々實施致シマシテ、時局ノ要請ニ即應スルコトニ努メテ居ル次第デアリマス、第一點ニ付キマシテハ、大學專門學校ニ於ケル、比較的少壯ノ教授、助教授、或ハ助手等ノ研究要員ニ付キマシテ、或ハ應召等ノ問題ニ付キマシテ、出來ル限り適當ナ措置ヲ講ズルコトニ考究致シテ居リマス、第二點ニ付キマシテハ、是ハ研究補助員ノ問題デアリマスガ、現在研究者ニ對ジマシテハ非常ニ多クノ研究ニ對スル負擔ガ掛ケラレテ居リマス、勿論戰時ノコトデアリマスカラ、平時ノ數倍或ハ十數倍ノ力ヲ出シテ、研究ニ從事シナケレバナライ譯デスガ、其ノ際ニ困ルノハ、研究補助員ノ不足ト云フコトデアリマシテ、研究補助員サヘ相當ニアリマスナラバ、有能ナル研究者ハ相當多クノ研究課題ヲ擔當スルコトガ出來ル、又擔當シテ貰ハナケレバナラヌノダト思ソテ居リマス、併シ研究補助員ノ不足ノ爲ニ、其ノ脚が思フヤウニ任せヌ點ガアルト思ヒマス、隨テ此ノ點ヲ確保致シマス爲ニ、既ニ講ジマシタ措置ト致シマシテハ、從事シテ居ル研究室ニ、勸労動員ノ現場カラ歸シマシテ、協力セシメテ居リマス、イマツツノ方法ハ、速急ニ研究補助者ヲ養成スル方法致シマシテ、例ヘバ鑽石分析ト云ソタヤウナ或ルソノ技術ダケニ付キマシテ、單能技術者ヲ速急ニ養成スル方法ヲ講ジテ居

ル、是ハ大學専門學校ニ委託致シマシテ
テ、中等學校ノ卒業生ヲ半箇年養成致
シマシテ、現ニ使ツテ見テ居ルヤウナ
次第アリマス、只今マデ講ジテ居ル
措置ノ大體ハ右ノ通りアリマス

○**仲井姫委員** 是ハ文部當局カラ科學
研究要員ノ養成確保ニ關スル件ト云フ
文書ガ參ツタノデアリマスガ、今ノ御
説明ハ是ガ詰リ具體的ナモノデ現ハレ
テ居ル譯ナシデスカ、別ニマダ何カ科學
學特別研究生制度ト云ツタヤウナモノ
ヲ創設シテノコトデゴザイマセウカ

○**清水政府委員** 大體只今申上ゲタノ
ハ此ノ材料デゴザイマス

○**仲井間委員** 今此ノ特別研究補助昌
ノ研究者ノ研究室ニ入レテ研究ヲ進メ
ラレテ居ル其ノ學徒ニ對シテハ、入營
トカ召集トカ云フ關係ハドウナツテ尾
リマスカ、或ハ勤勞動員ノ關係ハドウ
云フ風ナ措置ニナツテ居ルカト云フコ
トニ付テ御伺ヒ致シマス

○**清水政府委員** 御質問ノ研究室ニ對
シテ研究補助員トシテ研究ニ從事セシ
メル學生、生徒ニ付キマシテハ、既ニ
勤勞動員ニ出テ居ツタモノノラ躊シマス
ノト、ソレカラ今後特別ノ措置ヲ講ジ
マセヌラバ當然動員セラベキ學徒ニ
中一部ヲ動員カラ除外シテ研究室ニ補
助セシタル場合トガアリマス、徵兵ニ
付テハ理科係學徒ノ徵兵猶豫ノ一般
則ニ從フコトニナツテ居リマス

○**仲井間委員** ソレハ凡ソ何名位デ
ザイマスカ

○**清水政府委員** 研究室ニ於テ研究ニ
從事セシメテ居リマス學徒ノ數ハ、正
確ナ數字ハ記憶シテ居リマセヌガ、曰
今マデニ措置ヲ致シマシタモノガ約モ
五百名ト云フ風ニ記憶致シテ居リマス
○**仲井間委員** 學徒ハ主ニドノ方面カ

○清水政府委員 理科系ノ官公私立大學及ビ専門學校ノ全部デアリマス
○高城委員 此ノ際科學技術ノ振興
關スル問題ニ關聯シテ、少シ御尋ね
シタイト思ヒマス、我々ガ特攻隊ニハ
掌シテ日本ノ科學技術ガ、最高度ノ點
力ヲ發揮サレルヤウニ、是ガ徹底的
實現ヲ見タイト深ク念ズルモノデアリ
マス、必ズシモ、過日技術院總裁ガ御
表ニナリマシテ、皆ノ心ヲ打ソタニ
フコトデ喧傳セラレテ居リマスル新ニ
器ト云フヤウナ問題ダケデナクテ、モ
ト科學技術者ガ卒百両ニ力一杯、根限リ
心カラノ喜ビヲ以テ立上ルト云フ現
ノ實情ヲ、戰局ノ急ナル場合は非露
ニ致シタイモノダと思フノデアリ
ス、我々ハ合掌スルタビニ、其ノ推進シ
アルベキ科學者ガ、暗雲低迷ノ間
アルコトヲ政治ノ面カラ深ク顧ミテ「
省ヲ致スノデアリマス、今日技術院
軍需省、文部省等ノ綜合的ナ再検討
依リマシテ、政府ノ是等ニ關スル徹
的ナ方策ヲ明カニシテ、是等ノ對策
戰力化へ確立致シタイト存ズルノデ
リマス、ソレニ付キマシテ幾多ノ問題
ガアルト思ヒマスガ、先ツ其ノ根柢
致シマシテ、現在ノ科學技術ノ政策
關シマシテ二、三御尋ネラ申シテ見
イト思ヒマス、先ヅ總裁ニ科學技術
議會ノ性格ヲ御述べ戴キタイト存ズ
ノデアリマス

項が詰問セラレタノデアリマス、ソレ
對シ澤山ノ部會ヲ作ソテ検討致シマ
テ諸問ニ答ヘルコトヲ致シテ居リマス、其
ガ擔當シテ居ツタ譯デゴザイマス、ソ
色重要な問題ニ付テ軍官民ノ専門科
技術者ヲ集メテ編成シタ部會ガ研究
シタノデアリマスガ、是ハ科學技術
研究室ニ於ケル研究ト云フ種類ノモ
デハナクシテ、既ニソレ等ノ委員ガ
年経験シ、抱懐シテ居ル所ノ力ヲ協
ル所ノ審議會デアツタ譯デゴザイ
ス、戰局ノ進展ト共ニ問題ガ色々新
ク出テ參リマシタニ付テハ、ソレノ
審議ヲ進メテ關係方面ニ意見ヲ申
シマシテ、着々政府ノ施策ト相成ツ
ス、戰局ノ進展ト共ニ問題ヲ採上
ク出テ參リマシタニ付テハ、ソレノ
審議ヲ進メテ關係方面ニ意見ヲ申
シマシテ、着々政府ノ施策ト相成ツ
ス、戰局ノ進展ト共ニ問題ヲ採上
ク出テ參リマシタニ付キマシテハ、此
テ、最近ノ重要ナ國策ノ資料ヲ提供
シマシテ、先頭カラ内閣ニ綜合計
局ガ出來マシタニ付キマシテハ、此
科學校技術審議會ノ活動ハ、綜合計畫局
總合國策立案ノ爲ニ大いニ力ニナル
ノト存ジテ居リマス、昨年末マデニ
討致シマシタ結論ヲ答申シタ事項ハ
十七件ニ相成ツテ居リマス
○高城委員 尚ホ科學動員協會ニ付
マシテ御説明願ヒタイト思ヒマス
○八木政府委員 官廳ニ於キマシテ
科學技術動員ノ如キ専門的ノ仕事ヲ
メマスルダケデハ、活動上色々不便
場合ガアリマス所カラ、科學動員協
ト云フ一つノ外郭團體ガ構成サレタ
デアリマス、是ハ一つノ財團法人デ
リマシテ、其ノ財團ハ政府ノ補助金
相當大キモノノデハアリマスガ、主
シテ軍需生産會社方面カラノ寄附行
結果、財團法人中デハ豊富ナル財
持ツテ居リマシテ、其ノ活動モ頗ル
ルベキモノガアル譯デアリマス、隨

○高城委員 全國科學技術聯盟事務局
ト申シマスノハドウ云フ性格ノモノデ
アリマスカ
○八木政府委員 多分全日本科學技術
團體聯合會ト云フ長イ名前ノモノノコ
トダト思ヒマス、長イ爲ニ全科技聯ト
略稱シテ居リマス、是ハ、日本ニ科學技
術ノ學會、協會ガ澤山ゴザイマス、ソ
レゾレノ専門ノ科學者ノ學會、專門ノ
技術者ノ學會ト云フモノガアリマシ
テ、是等ノ聯合シタモノガナカツタノ
デアリマス、ソコデ全日本科學技術團
體聯合會ト云フモノヲ作りマシテ、是
ハ學會、協會ガ其ノ會員デアル形ノ聯
合會デアリマス、學會、協會ノ數ハ結
成當時百五、六十デアソタト思ヒマス
ガ、只今之ニ加盟シテ居リマス學會、
協會ハ更ニ殖エテ參リマシテ、精密ナ
數ハ記憶致シマセヌガ、二百ニ近イ學
會、協會ヲ會員トシテ居ル譯デアリマ
ス、所ガソレ等ノ學會、協會ハ、率直
ニ申シマスト、學者、技術者ノ會デア
ルガ爲ニ、經濟的ニ比較的微力ナモノ
デアリマス、ソレ等經濟的ニ微力ナ學
會、協會ガ代表者ヲ出シテ集マツタ聯
合會ガ、又經濟的ニ微力タラザルヲ得
ナイノデアリマシテ、此ノ點ヲ認メテ技
術院デハ政府カラ相當ノ補助ヲ致スト
云フコトニ相成リマシテ、幸ヒニ此ノ聯
合會ハ、今日各種ノ重要ナ仕事ヲ致シテ
トシテ軍需生産ト云フ面ヲ擔當致シテ
ハセルヤウニ運營シテ行クコトニ努メ
テ居リマス

居リマス、之ニ對シテ全科技聯ノ方ハ學問的ナ面、例ヘバ海外ニ於ケル學問ノ進歩ノ情報ヲ入手致シマシテ、ソレ致シテ居リマスルモノガ、紙ノ不足ノ爲ニ思フニ任せナイ、ソコデ之ヲ合理化シテ無駄ノナイヤウナ印刷出版ヲスル、世話ヲスルト云ツタ風ナ、大體科學技術關係學會、協會ノ活動ヲ圓滑ナラシムル爲ニ働イテ居リマス、今一ツ此ノ全科技聯ノ働イテ居リマスルコトハ、極ク若イ研究者ノ研究隣組ナルモノヲ作ツテ、互ヒニ練磨スル機會ヲヘルト云フ仕事ヲ致シテ居リマス、是ハ養成デモナイ、サレバト申シテ學會、協會自體ノ發表會デモナイ、ソレヨリモ若イ研究者ガ互ヒニ自分ノ研究ヲ話シ合ツテ實力ヲ付ケルト云フ爲ノ研究隣組ト云フモノヲ運營致シテ居リマス

○ 清水政・府委員　學術振興會ノ方ハ、
是ハ元來御下賜金ヲ基礎トシテ出來マ
シタ財團法人デ、今日マデ學術ノ振興
ノ爲ニ重要ナ研究題目ヲ選ビマシテ、
其ノ研究題目ヲ擔當スルニ適當ナ研究
者ヲ、官民ト言ハズ依嘱致シマシテ、
研究ノ推進ニ當ツテ居ルノデアリマ
ス、今日マデニ多大ノ成果ヲ收メテ居
ルノデアリマス、之ニ對シマシテ政府
ハ毎年三百萬圓ノ補助金ヲ交付致シ
テ、其ノ活動ヲ助成致シテ居ル次第テ
アリマス

○ 高城委員　以上ハ私ノ知ル範圍デ一
應茲ニ其ノ性格ヲ明瞭ニシテ戴イタ、
サウシタ學會乃至ハ研究團體ヲ引例致
シタヤウナ次第テアリマスガ、尙ホ此
ノ外ニ軍部ノ方ニ於キマシテモ同様ナ
ル研究團體ガ、或ハサウシタ方面ノ政
策ノ運用セラレル部面ガ段々アルカト
思フノデアリマス、問題ハ、戰局正ニ
危急ナル際、如何ニシテ斯ワ云フヤウ
ナ我ガ同ジ國家デ經營セラレテ居ル所
ノ科學技術政策ヲ、端的ニ最モ能率的
ニ、而モ行動的ニ之ヲ運營ラシテ行クナ
カト云フヤウナ緊急ノ面カラ、或ハ再
發足、再構成、或ハソコラニケル有
機的ニ統合ナリ、其ノ途ニ付テ「ツノ
問題ヲ政府ハ持タナケレバナラヌノデ
ハナイカト云フコトヲ感ズルノデアリ
マス、ソレハ其ノ發生ノ歴史ヲ持
チ、又其ノ時ニ應ジテ必要アツテ生レ
タモノデハアリマスガ、併シ今日ノ場
合、一機ノ飛行機、或ハツノ新兵器
ト云フモノヲ待望シ、國民ノ總テノメ
ガ逆流スル思ヒヲ以テ戰局ノ行末ヲ見
守ツテ居リマス際ニ、斯ウシタ科學技
術設置サレテ居リマス

術術ガ「ダヴェール」ヲ脱イデ其ノ所在ヲ
明カニシテ、サウシテ陣頭ニ立ツテダ
ングン國民ヲ牽ヰテ行クト云フ實踐行
動ヲ現ハシテ行ツテ貰ハケレバナラ
ナイ絶對ノ時ニ直田致シテ居ルノデア
リマス、實ハ此ノ國體ノ一ツヽヲ説
議致シマシテ、サウシテ此處デ一問二
答ヲ重ネレバ幾多ノ問題が發生スルト
思フノデアリマスガ、兎モ角モ概括シ
テ、ソレヽ相富ノ研究家デナケレバ
分ナヌ位ニ、内容が複雜ニナツテ參
テ居ルト恩ハレル位ニ複雜ニナツテ居
リマス、私ハ端的ニ之ヲ取上げマシ
テ、一ツノ問題ヲ提供シタイト思フノ
デアリマスガ、斯ワシタ幾多ノ研究團
體ガ、成程縱横ニ連絡ガアツテソレ
ゾレ有機的ナ活動ヲシテ居ルコトニ、
圖上デハナツテ居ルコト思フノデア
リマス、併シナガラ實際上ニハ連絡ス
ヅテ無キガ如シ、一例ヲ申上ゲマスレ
バ、答申案ヲ作ツテ出シタ、併シ其ノ申
レハ單ナル「レポート」ノ集積サレル
ソノ印刷物ニナルノダ、或ハ最モ大キ
ナ問題ハ、ソレヽノ國體ニ屬シ居テ
ル「メソバ」ガ、必ズ人的ニハ交錯サ
レタ狀態ニアルデアラウト思フノデア
リマス、日本ノ科學技術者ト銘ヲ打タ
レルヤウナモノノ數ハ極メテ少イノ
アリマシテ、此ノ狹イ國中デアツチ
ツチ引張リ廻ハシテ見タ所デ、ドウセ
人ノ面カラ見ルト、恐ラク一人ノ人ガ
アツチコツチノ會ニ驅ケズリ廻ツテ、
ノ委員會ニモ顔ヲ突出スト云フヤウナ
コトデ、結局小委員會ヤ協議會ニ奔命
齋养セラレテ、實際ニ技術上ノ研究三

味ニナルト云フ時間ヲ多分ニ失ハレルト云フナリトテ、良ク有機的ニ旨ク勵イテ居ラナイデハナイカト云フ御話ガゴザイマシタガ、總體トシテ見マシテ、私ハ司ナリベキモノアリト考ヘテ居リマスガ、尙ホ物足リナイ、修正ヲ要スルト云ツタ面ガ多々アルコトモ否定出來ナインデアリマス、併シ一見各種ノ團體ガアルト見エマスガ、ソレドヽノ性格ガ違ツテ居テ、サウシテソレドヽアル所ガ宜シノンデアリマス、先日豫算總會ニ於キマシテ、内閣ニアル研究動員會議ト云フモノト、文部省ノ學術研究會議ト云フノ如ク事務的ニ處理スル、大臣ヲ會長トスル研究動員會議ト云フノ如ク事務的ニ處理スル、最高ノ機關ガ出來テ居ル、ソレハ陸軍其ノ他ノ方面カラ、戰爭ノ爲ニ必要デ少シ其ノコトヲ申シマス、内閣總理ト云フノ如ク事務的ニ處理スル、トガ、斯クモ性格ガ違フモノニアルト云フ説明ヲ致シタノデアリマス、此處デ少シ其ノコトヲ申シマス、内閣總理ト云フノ如ク事務的ニ處理スル、研究ノ課題ヲ提出サレマシテ、即ち、研究動員ヲスル、動員ト云フ事務的ニコトヲスル會デアシテ、會員ノ數ハ僅カ二十數名デアリマス、之ニ對シテ研究會會議ト云フモノハ、研究者ノ數百名ノ集リデアリマシテ、其ノ研究孝ル人達ノ團體デアル其ノ他ニ大日本航空技術協會ト申スノモアル、高城委員会ス、日本學術振興會セサウ云フ研究ノ申サレタ外ニモサウ云フノガアリマス、以上ノ點ニ付キマシテ御答辯ヲ願ヒタイト思ヒマス

ス、所ガ期限ヲ切ツテ爾軍ノ要求ニ應ジテ早急ニ何カ纏上ゲルト云フ、動員ト云フ仕事ヲスルノガ研究動員會議、是ハ總理大臣ヲ會長トシテヤツテ居リマス、其ノ研究ヲシテ貰フモノヲ自分デ持ツテ居ルカト云フト、ソレハ全然持ツテ居ラナイノデアリマス、研究ヲ誰ニヤツテ貰フカト申シマスト、全國ノ科學技術者デアリマシテ、其ノ大部分ハ學術研究會議ノ會員デアル、或ハ會員デナクトモ文部省所管ノ大學、專門學校ノ職員デアル、其ノ他ニハ會社ノ研究所ニ居ル所ノ科學技術者モアル、軍ニハ固ヨリ澤山ノ科學技術者ガ居リマス、ソレ等ノ人達ニ問題ノ解決ヲ願ム形ニナル、ソレヲスルノガ研究動員會議デアリマス、所ガ學術研究會議モ此ノ事態ニ應ズルガ爲ノ、研究者ノ團體デハアルガ、此ノ研究ガ戰時役立ツヤウニシタイト云フコトデ、研究動員ト云フ委員會ヲ作タノデアリマス、併シ其ノ委員會ノ研究動員ハ、研究動員會議ノ研究動員ト少シ段階ガ違フト申シテ宜イカト思フノデアリマス、研究者自體ガ集マツテドノヤウナ研究ヲスベキカト云フコトヲ決定シテ、是ハ期限ヲ切ツテ居リマセヌ、研究ナルモノハ期限ヲ切ツタ仕事デアルカラ、平時ナル研究トハ餘程違フノデアリマス、サウ究動員會議ノ方ハ軍ノ要求ガ主デアルカラ、三箇月トカ四箇月トカ云フ期限ヲ切ツタ仕事デアルカラ、平時ナル研究トハ餘程違フノデアリマス、サウニクイカト思ヒマシテ、私ハ此ノヤウニ申シテ居リマス、譬へ話デアリマスガ、世ノ中ニ銀行ト云フモノガアル、信託會社ト云フモノガアル、無盡會社ガアル、生命保險會社ガアル、之ヲ貯

蓄奨勵ノ面カラ見ルト一ツデハナイカ、モ貯蓄銀行、ソレハノ性格アルモノガアツテ、サウシテ世ノ中ガ旨ク活動スルノデアル、ソレノ更ニ複難ナルモノガ科科学技術ノ研究ノ面デアルカラ、間口モ廣ク奥行キモ深イモノデアルカラ、一見色々ナモノガアルカニ見エル、唯之ノ有機的ナ適切ナル活動ヲ望ムト云フコトハ、誰モマダノ望マナケレバナラヌト考ヘテ居リマスガ、幸ヒ事態ハ之ヲ促進致シタヤウニ感ジテ居リマス、今日ノ時局ニ對シテ各個人ガソレハ反省致シマシタ結果デモアリマセウ、科學關係ノ團體ノ間ノ有機的ノ活動ハ大體ニ於テ非常ニ旨ク行ツテ居ルト感ジテ居ルコトヲ申上ゲマス○高城委員 文部省ノ方カラハ何カ御答辯ハアリマセヌカ○清水政府委員 只今技術院總裁ガ申サレタ通りデアリマシテ、外ニ蛇足ヲ加ヘルコトハナイト思ヒマス○高城委員 相當明確ナ性質ヲ持ツテ、例へバ一ツハ單ニ學術的ニ研究スルノダ、或ハ一方ハ實踐面ニ、例へバ生産方面ニ頭ヲ突込ンデ行クノダト云フヤウニ顯著ナモノガ一ツノ分類ヲ持ツコトハ、勿論我々ヲ認メルノデアリマスガ、併シ果シテ技術院ニ於ケル系列ノ中デ考ヘラレタモノ、文部省ノ中デ考ヘラレタモノ、其ノ他色々ニ直結シテ行クカト云フ面ニ關スル立場カラ考ヘマシタ場合ニハ、或ハ一時

斯ウシタ歴史的ナモノ、必ズシモ私
ハ統合トハ申シマセヌケレドモ、其ノ
中デ甲乙ヲ付ケテ、戦争ニ直結シ、政
治ニ直結シテ行クコトガ極メテ簡単ニ
出来得ルヤウニスルコトガ一ツ、第二
ハ多少トモ研究ラスル人ヲ餘り引摺リ
廻サナイ、若シ關聯的ナコトデ、例ヘバ
「ニッケル」ナラ「ニッケル」ヲ研究スル
コトニナレバ、「ニッケル」ノ研究家同
士ハ誰ガ其ノ研究ヲヤツテ居ルカト云
フコトハモウ分ツテ居ルノデスカラ、
其ノ生身ノ人間ガオ互ヒニ連絡ヲシ
テ、協調シテ、「ニッケル」ヲ此ノ際ド
ウ云フ風ニ持ツテ行クカ、資源其ノ
他色々ナ面カラ制約サレテ居ルノデア
リマスカラ、唯平和時代ニ考ヘラレル
ヤウニ「ヴァライエティー」ヲ以テ考ヘル
譯ニ行カナインデアリマスカラ、ソコ
デ直グ實體ガ捕捉出來ルヤウニ、人間
ト人間トガ結ビ合ツテ、研究團體ガ圖
表ノ上デ一ツノ麗ハシキ構想ヲ持ツト
云フノデハナクシテ、實體的ニソレガ
端的ニ動クヤウニシナケレバ、研究者
ヲ翻弄セシメル憂ヒガアルノデヤナイ
カト私ハ思フノデアリマス、此ノ二ツ
ノ問題ニ付テ御伺ヒ致シマス

○清水政府委員 私共大體斯ウ云フヤ
ウニ考ヘテ居ルモノデアリマス、大體
ノ研究活動ノ機構ハ、只今技術院總裁
カラ非常ニ詳細明確ナ御説明ガアリマ
シタ通リデ、ウマク行ツテ居ルト思フ
ノデアリマス、唯戰局ノ様相ガ非常ニ
複雜且ツ變轉極マリナインモノデアリマ
シテ、其ノ戰局ノ推移如何ニ依ツテ
ハ、ソレニ對シテ機動的ニ研究モ即應
シテ行カナケレバナラヌ場合ガアルト
思フノデアリマス、ソレニ對シテ如何
ニ即應スベキカト云フヤウナ點ニ付キ
マシテハ、是ハ中々難カシイ問題デア

リマシテ、實ヲ申スト、作戰ノ極メテ
機密ナ部分、軍機ノ中樞ニ觸レナケレ
バ實ハ分ラヌ場合ガ多イノデス、今マ
デノ實情デハ中々研究者自體ガ其ノ戰
爭ノ實相ニ直接觸レ、軍機ニ立入ツテ
其ノ研究ヲ機動的ニ變ヘテ行クト云フ
コトハ先ツ不可能デアツタノデアリマ
ス、併シナガラ戰局ノ情勢ハ其ノ儘推
移スルコトヲ許サナイヤウナ情勢デア
リマスノデ、昨年八月ニ陸海軍ノ部内ニ
ニ、陸海軍次官ヲ委員長トシ、軍務局
長ヲ副委員長トスル陸海軍技術運用委
員會ト云フモノガ出來タノデアリマ
ス、此ノ委員會ノ使命ハ、陸海軍部内ニ
於ケル研究ノ一元的綜合調査ヲ圖ルト
同時ニ、部外ノ研究力ヲ其ノ委員ノ中ニ
入ツテ居リマス陸海軍部外ノ委員ヲ通
ジテ早急ニ部内ニ注入りシ、戰力化スルヤ
ウナ方途ヲ講ズルコトニナツタノデア
リマス、隨テ斯ウ云フ委員會ガ出來マ
シタ結果ハ、部外ノ研究力ハ此ノ戰爭
ノ情勢ニ應ジテ其ノ機動的ナ措置ヲ執
ラナケレバナラヌ筈デス、隨テ其ノ技
術運用委員會ノ使命ハソコニアル、サ
ウ云フ委員會ガ出來タコトハ、今マデ出
來ナカツタ措置ガ之ニ依ツテ執り得ラ
レルノダト云フ風ニ期待致シテ居ルモ
ノデアリマス、只今マデノ經過ニ付テ
此處デ申上ゲルコトハ出來ナイノデア
リマスガ、相當進捗シ、成果ヲ擧ゲツ
ツアルモノト私共ハ考ヘテ居ルノデア
リマス

審査三行ク、例へバ實地踏査三行ク場
合ニモ技術院カラ行ク場合、文部省カラ
行ク場合、ソレドノノ團體カラ調査三行
ク、ソレモ一方ノ團體カラ調査三行
タ場合ノ「レポート」ハ別々ニナル、一
方ニハ關係ガナイ、サウ云フコトガ實
際上ニハ非常ニ複雜ニ引廻サレルヤウ
ニナツテ居ルニ違ヒナイト私ハ感ズル
ノデアリマス、ト申スノハ日本ノ今マ
デノ總テノ行政政治ノ行キ方ハサウ云
フ傾向ヲ持ツテ居ルカラ、一人ノ人間
ガアツチヘモコツチヘモヤタラニ方々ニ
引張リ廻サレテ「エネルギー」ヲ消耗ス
ル、ソコデ學者ノ「エネルギー」ヲ消耗
スルコトノナイヤウニト云フ念願ニ從
ツテ、所屬團體ノ會合ヲ試ミタ譯デア
リマス、其ノ他ニモ色々問題ガゴザイ
マスガ、兎ニ角所屬ノ團體ガ色々アリ
マセウガ、或ハ技術院式、文部省式其
ノ他陸海軍——今御話ノサウ云フ面モ
イテ實際ニ自分ノ專門ノ領域ニ付テ生
キタモノヲ盛リ上ラセテ行クコトガ、
今日最早理論ノ段階デハナイ、實踐ノ
段階ニアツテ帝國ノ興亡ヲ決スル時ニ
ハ重大ナル問題ニナツテ來ルト私ハ思
ヒマス、其ノ關係デオ互ヒニ此ノ組織
ニ付テ一ツノ検討ヲシナケレバナラズ
ト思フノデアリマス、之ヲ技術院ニ持
ツテ行クカ、或ハ文部省ニ持ツテ行ク
カト云フコトニナツテ參リマスト、幾
多ノ意見が出テ來ルト思フノデアリマ
スガ、兎ニ角ハツキリト、此ノ男ハ何ヲヤツテ居
ル、一日二十四時間ノ中ニ、クダラナ
イ所謂一ツノ科學技術國策ト云フモノ
ノ圖表ノ爲ニ勵クト云フノデハナクシ
テ、一ツノ研究ソレ自體ノミニ打當ツ

テ行ク時間ガ大幅ニ出ルヤウナ政治機構ニスルノガ賢イ行キ方ダト思ヒマス、過去ノ色々ナ行掛リヲ清算シテ行カナケレバナラヌコトハ、色々問題ニ於テ盛ソニ論ゼラレテ居リマス、例ヘバ今日翼壯ノ問題ト農業會ノ問題ト兩立シテ居ルガ、農業會モ麥ノ増産ヲヤル、翼壯モ廣幅薄荷ノ植エ方ヲ獎勵スル、翼壯式麥植エト地方デハ名ヲ付ケテ居リマスガ、翼壯式麥植エト農業會式麥植エト云フヤウナ工合デソレゾレ一生懸命其ノ所管ニ依ツテヤラウトスル、其ノ縱ノ系統ノ行キ方ト云フモノハ成程分ルノアリマスガ、下部末端ノ所デ、ドツチニモ引張リザレル人ノ立場ニ立チマスト、今日程積極的ニ仕事ヲ盛リ上ゲテ行ケナイ、歩ミニクイ時代ハナイ、其ノ中デ政府ノ責任ニ於テ一番根本的ナモノハ機構ヲ簡單化シテヤルコトデアル、一ツノ仕事ガ丹念ニヤラレルコトデアル、サウシテ圖表モ先程御話ノ現在ノ動員會議デ結構デス、其ノ中デチャント「レツタル」ガ付イテ居レバ宜イ、ソコデ直接パンくトヤツテ行ク、其ノ人ガ何處デ研究シテ居ラウガ、民間ノ團體デアラウガ、會社デ研究シテ居ラウガ、大學デ研究シテ居ラウガ、ソレハ構ヒハシナイ、ソンナコトヨ間ウテ居ルノデハナイノデアツテ、人間ソレ自體ガ最モ端的ニ科學ソレ自體ヲ研究スル、技術ソレ自體ガ研究サレルヤウナ工合ニ、安ンジテ仕事ガヤラレルヤウニ持ツテ行キタイ、凡ソ「コソマ」以上ノ人ニナルトアツチニ行ツテハ一袋、コツチニ行ツテハ一袋ト始終袋ヲ抱ヘテアツチコツチノ委員會ニ顔ヲ出シテ歩カナケレバナラナイヤウナ現状ニアル、是モ小限度ニ集約スルト云フコトガ今日ノ

段階デアル、日本ノ今日ノ總テノ政治
機構ヤ文化構造ハ、三千年ノ歴史ノ中
デ一番豊富デアツテ、而モ集約的ニ、
端的ニ形體ヲ現ハサナケレバナラナイ、
科學的ナ所謂國家運營ト云フモノヲ
ヤラナケレバナラナイ時ニ差當ツテ
居ルト思フノデアリマス、其ノ面ニ於
テ最モ科學ヲ推進スル、科學ノ闇闇氣
ノ中ニ釀成サレテ居ル人達ガ特ニ圖表
的ナ論理性ノ中デ、實體ガ摺リ減サレ
テ行クト云フヤウナ行キ方デナシニヤ
ツテ行キタイト云フコトヲ私ハ念願ヲ
シテ居ルト實ハ申上ゲタ次第デアリマ
ス、恐ラク此ノ點ハ率直ニ肚ヲ割ツテ
言ヘバ官吏ノ方々モサウダラウガ、何
トカ委員會、何トカ會議ト始終サウ云
フモノニ袋ヲ持チ抱ヘテ行カナケレバ
ナラズ、本當ニ落着イテ、是ダケヲ此
ノ戰爭ニ役立テルノダト云フコトヲ斷
乎トシテ貫イテ行クト云フヤウニ落着
イテ仕事ヲナサルコトガ出來ナイデア
ラウト思フノデアリマス、此ノコトガ
今日ノ戰力ノ重大ナル阻害ニナツテ居
ル、日本人ハ人ガ少イ、科學者ノ數ノ
如キニ至ツテハ洵ニ少イ、其ノ少イ人
間ヲドウ云フ風ニ勤員スルカト云フ場
合ニ上カラ上へ機構ヲ作ツテ行クト云
フ勤員ノ仕方ハ素人デアリマス、本當
ノ玄人ノ所謂人ノ勤員ノ仕方ト云フモ
ノハ、人ヲ實體デ捉ヘテ行クト云フ面
ニ付テ簡單明瞭ナ組織ヲ持ツコトニ依
ツテ之ヲ推進スペキダト思フノデアリ
マス、サウナルト此ノ問題ハ總理大臣
ニ關係スル問題ニナツテ來ルト思フノ
デアリマスガ、ヨ、ニ色々な問題ガア
ルト思ブノデアリマス、例ヘバ技術院
ナラ技術院ヲ最高ノ決裁所トスル、ソ
シテ文部省デ研究ヲスル、或ハ軍需省
ノ策ニ依リ、其ノ連絡ニ依ツテ研究

スルト云フヤウナモノデモ、結局ハソ
レヲ技術院ニ持ツテ行ツテ、ソコデ決
裁ヲシテソレガ生産ニ移ツテ行クト云
フヤウニスルカ、或ハ軍需省 技術院
ヲ廢シテシマツテ、或ハ軍需省ナラ軍
需省一本デソレガ簡單ニ直結スルヤウ
ニスルカト云フヤウナ問題ガ重大ナ問
題デアリマス、是ハ委員會ノ問題トシ
テハ少シ問題ガ大キクナソテ來マス
ガ、其ノ點ニ付テ地方ノ少クトモソレ
等ニ關シテ相當ノ關心ヲ持ツテ居ラ
ル人達ガ皆ソナ今日ハ既ニ感ジテ居ラ
レルコトデアリマス、色々ナ面カラサ
タ、大體企畫院ヲ潰シタト云フコト
ウ云フ話が出て來ルノデアリマス、總
合計畫局ガ生レマシタコトニ付キマシ
テハ實ハ非常ニ私共待望シテ居リマシ
タ、大體企畫院ヲ潰シタト云フコト
ハ、是ハ日本ノ最近ニ於ケル大失敗デ
アツタト思フノデアリマス、成程企
畫院ガ實踐段階デ軍需省ニ行ツタト
云フコトハ、ソレハ肯ケル點モアリ
マシタケレドモ、併シヤハリ日本ノ
行政ハ兎角各省分裂、局課主義ニ分
レル傾向ガサナキダニアリマス、サ
ウシテ一人人々ノ部分ニ擔當者ガ纏
メヨウ、纏メヨウト云フ意識ヲ出シ
タガルノガ島國根性デアリマス、此ノ島
國根性デ放ツテ置ケバ必ズ分レルコト
ニ急デアリマス、又文化トハ分レルコ
トナリト言ツテモ宜イ位デアリマス、ソ
レハ特ニ日本ニヒドイ、私ハ物ニ分レテ
行クト云フヤウナ面カラ、所謂機構ヲ
作ルト云フ意味デ言ツタノデハナク
テ、企畫ノ根元的ノモノガアツテ、ソ
コデ例ヘバ科學ノ研究ニシテモ、方
向ト資材ヲ「タイ・アツブ」シテ與ヘテ行
クト云フヤウナコトガ生レルベキ企畫
院ガナケレバナラヌ、唯軍需省、農商
省其ノ他ノ關係ヲ離レテハ物ガ生レテ

來ナ、是ハ一般ニ論ゼラレ居ルコトデアリマス、併シ 総合計畫局ガ生レ、是ガ大體サウ云フ面ニ付テドウ云フ勵キヨシテ居ルカ私ハ知リマセヌガ、何レハ綜合計畫局ノ内容ガ相當具體的ニ行カネバナラナイ、觀念ダケデハ居レナイト云フ段階ニ入ツテ行クト思フノデアリマス、サウ致シマスレバ其ノ次ニ科學技術行政ト云フモノヲ一ツノ明確ナル形デ確立スルト云フコトガ必要ダ是ハ私ノ私見デアリマスガ、總裁ノ御意見ヲ承リタイト思ヒマス〇八木政府委員 先程申シマシタヤウニ、現在ノ機構ガ相當複雜デハアルガ、運營ハ可ナリ宜シト感ジテ居ルト云フノガ私ノ心境デゴザイマス、ソコデ他ノ簡單明瞭ナル機構ト云フモノニ付テハマダ自分トシテハ案ガゴザイマセスガ、此ノヤウナ機構ガ宜シイ、アノヤウナ機構ガ宜シト云ツテ、若シ提案スル人ガアツタ時ニハ尙ホ檢討致シマシテ、機構ヲ變ヘて見テモ現状ト餘リ變ラナイヤウデアレバ此ノ時代ニ於テハ成ルベク現狀デ行ク、ソレヨリモ大イニ得ル所ガアルヤウナラバ是ハ改メ得ル所カラ改メルト云フコトニナルベキモノト考ヘマスルガ、是ハドウモ私一人デシタ其ノ精神ハ全ク同感デゴザイマシテ、其ノ精神ヲ我々ハ重ンジテ今後ノ運營ヲ適切ニ致シテ參リタイト考ヘマス、尙ホ機構ヲ如何ニスルカト云フ問題ハ總理大臣ノ方デ御考へ付キガアリマシテ、多少ノ變更修正ノアリマスヤナリミシタ精神ニ則ツテ我々モ十分判斷致シ獻策致シタ伊ト考ヘマス

含ミガアツテ非常ニ意義深ク拜聽致マシタ、又話ヘ團體等ノコトニ戻リマスガ、例ヘバ團體ガ幾ツモアル、唯ソレヲ機械的ニドウスルト云フ趣旨アハナク、其ノ間ニ團體ガ生キモノハ生キモノハ又其ノ懸置サレルモノハ存置サレタナリ、行クト云フヤウナ自然ノ運營ト云フモノガ、先程御話ノヤウニ研究動員會議等デ自然ニ引張ツテ行カレルコト思ヒマスガ、サウ云フ點ハ勿論ソレデ宜イノデアリマスガ、問題ハ技術ガ必ず實踐ト直結スルト云フ一ツノ強力ナ政治性ヲ持ツ爲招集サレタ會議デアリマスト、ソレニ於ケル諸問案ハ直チニ生キテ行ク、併シ外ノモノハ其ノ諸問ニ應ヘタ答申案ヲ作ツテモソレガ必ずシモ生キラレナイト云フヤウナコトノ爲ニ、學者ガ非常ニ有效的確ニ使ハレナケレバナラナイノニ、ソコノ所デ低迷シテ居ル點ガアルノデハナイカト云フコトヲ感ジマス、結論トシマシテハ所謂技術院ノ政治性ト云ヒマスカ、技術院ソレ自體ガ本當ニ日本ノ技術ヲ綜合スルト云フコトデアリマスレバ、之ヲモット高度ノモノニ持ツテ行カナケレバナラナイト云フコトヲ結論トシテ申上ゲル次第アリマス、尙ホ其ノ問題ニ付キマシテハ今モ總裁ノ御話ノヤウニ愚言アリマスガ、御考ヘヲ願ヒマシテ、是非此ノ研究實體ノ人生生活レ自體ニ付キマシテ、總裁ハ自ラ研究ヲナサレタ其ノ道ノ大先輩デ居ラツシヤイマスカラ、モウ既ニ御分リノコトデアリマスケレドモ、研究者實體ノ其ノ人々ガ的確明瞭ニ生活ガ出來マスルヤウニ、サウシタ面カラモ是非御高配ヲ戴キタ

イ、其ノ面カラノ連絡協調ヲ十分ニヤツテ戴キタイト云フコトヲ申上ゲタ、ドウシテモ學問ヲヤリマスニハ、時間ト熱意ガ斷續シナイコトガ必要デアリマス、是ガコツチノ委員會アツチノ會議ト云フコトデ、「レポート」バカリ作ツテ居ルト國ハ亡ビル、其ノ人ハ最後マデ敵軍ノ馬蹄ノ響キガ聽エルマデ現物ヲ捉ヘテ、ソコデシツカリ研究ヲ御配慮願ヒタイコトヲ申上ゲルノデアリマス。

其ノ問題ハソレダケト致シマシテ、其ノ次ニ専門技術者ヲ我々共ガ支

持致シマスル緊急對策ト致シマシテ、今ノト多少關聯ヲ致シマスガ日常生活ノ援護ノ問題デアリマス、是モモウ

屢々新聞等デモ獻策的ノ意見ヲ述べ

テ居ラレルノデアリマスガ、此ノ生活ノ援護ニ付キマシテ其ノ後トカ經メ

テ立案ナサンタヤウナコトデモアリマスレバ一ツ御發表願ヒタイ

○**永井政府委員** 文部省ノ所管ニ屬シマスル職員、即チ大學教授、專門學校ノ

教授等ノ生活援護ノ問題ニ付テ御答へ

テ居ラレルノデアリマスガ、此ノ生活ノ援護ニ付キマシテ、實際ニ研究ヲ

致シマスルニ付キマシテハ、是ハ甚だ

直截ナ話デゴザイマスガ可ナリ遅クマ

デ研究致シマスル爲ニ腹が減ルノデア

リマス、研究ヲ致シマスルノニ食糧ノ問題ガ大切ダト云フノハ一寸考ヘニク

イコトデアリマスガ、併シ私ガ現ニ知

テ居リマスモノ、私ガ見マシタノ

モ、國ガ研究者ヲ勤員スルニハ緩急順

テ居ル、此ノ研究者ハホソノ田舎ノ工

業專門學校ノ教授デアリマスガ、斯ウ

云フノハ澤山アリマス、是等ニ對スル

食糧ノ問題ヲ非常ニ考ヘマシテ、是等ニ付キマシテ只今文部省ト致シマシテ

モ關係方面ト色々折衝ヲ致シマシテ、何カ食糧ノ加配等ニ付テ一部ハ實施ヲ

致シテ居リマス、又其ノ他ノ事ニ付テ目下色々段取ヲ立テ居リマスノ

モ、是ハ其ノ内全部ニ亘ツテ實境シテ

參ルカト思ツテ居リマス、其ノ他生活ノ援護ト云フ點ニ付テノ御尋不ニ付キ

マシテハ俸給或ハ其ノ他ノ經費ノ問題モ色々アルカト思ヒマス、ソレ等ニ付キマシテハ是亦色々ト氣ヲ配ツテ居リマシテ、研究實其ノ他ニ付キマシテハ相富ノ増額ヲ從來モ認メテ戴キマシタガ、今議會ニ於キマシテ衆議院ニ於キトシテ提案ヲ致シマシテ衆議院ニ於キマシテハ御議決ヲ戴イテ居ルヤウナ状況デゴザイマス、極ク一端ニアリマスガ右御答ヘ致シマス。

○**八木政府委員** 實ハ研究者ト云フモノハ何ヲ第一ニ要望スルカト申シマス

ト、生活トカ待遇トカ云フコトハ中々口ニ出シマセヌデ、自分ノ専門ノ仕事ノ便宜ト云フコトニ對シテハ、實ハ熱

心ニ執拗ナ程ニ要求ヲ致スモノデアリマス、ソレデ兎角研究設備ヲ十分ニ

シ、研究用ノ藥品ヲ與ヘ、研究用ノ費用ヲ出スト云フヤウナコトニ第一骨ヲ折ルモノデゴザイマス、其ノ結果デアリマスガ近頃ニナリマシテハ、モツリマセウガ近頃ニ腹が減ルノデア

ト個人的生活ノ面ヲ見ナケレバナラヌト云フ事態ガ餘リニ多ク現ハレテ參ツ

タノデアリマス、是ハ先程仲井間委員ガ申サレタ最初ノ話ニ關聯シマシテ

モ、國ガ研究者ヲ勤員スルニハ緩急順

テ居ル、此ノ研究者ハホソノ田舎ノ工

業專門學校ノ教授デアリマスガ、斯ウ

云フ論ヲ只今書イテ居ルヤウナ狀態デ

アリマス、サウ云ソタ適切ナ民間團體

モ出來テ居リマセヌ、大日本技術會ニ

對シマシテハ、本年度第二豫備金ニ依

テ、シツカリ之ヲ遺憾ナカラシムルヤ

リ上ツテ居ルノデアリマス、サウシテ居リマスカハマダ決定シテ居リ

ニ付キマシテ、大日本教育會ト云フモモウ相富出テ居ル、職場デ試驗官ヲ

持ツテ斃レタ儘遂ニ歸ラナカツタト云

フ研究者モアルノデアリマス、東京帝大ノ大段博士、東北帝大ノ市原博士等、

既ニ新聞ニモ出大人達モアルノデアリ

マス、其ノ研究者ハ研究ノ便宜ノ方バ

カリデ、自分カラ申シマスナラバ、是

ニモ洵ニ有難イコト考ヘルノデアリ

マスガ、今日マデツイ他ノ色々ノ重要

ニコトニ追ハレマシテ、國民一般ノ興

論ヲ喚起スルトカ、運動スルトカ云フ所ニ至ツテ居ラナイ事情デゴザイマス

テ色々策致シテ居リマス、ソレニ付

テハ技術院ト文部省トハ緊密ナ連絡ヲ

取ツテ、決戰トナ技術者ニ及ブヤウニ警視廳ニ於テ特別ナ御配慮ヲ戴イテ居

ト考ヘテ居リマスガ、東京都ニ於テハリマス、又民間ニ於キマシテハ生活必

需品ニ關スル統制團體アタリデ好意ヲ寄セテ吳レテ居ルモノモアルノデアリ

マシテ、近ク内務省デハ全國地方廳ヘソレハ御手配ニナリマシタカ今ナツ

テ居ル所ト存ジマスガ、其ノ點遺憾ナキヤウニ致シタイト云フコトニ相成ツ

テ居リマス

○**高城委員** 例ハ軍事援護會トカ、

或ハ勤勞學徒ノ援護ヲヤルヤウナ組織

ガ段々進シテ参リマスガ、此ノ科學技

術者ニ關シテ國民ノ意識情熱ヲ盛リ

ニ起サルベキ使命ガ技術院ニアルノデ

ハナイカ、如何デゴザイマスカ

○**八木政府委員** 技術院ト致シマシテハ、近頃大日本技術會ト云フモノガ結

成サレタノデアリマス、此ノ科學者、技術者ト云フモノハ、自分でサウ云ツ

タヤウナ團體ヲ結成スルコトモ、割合

ニ社會ノ他ノ部圓ニ比ベ遅イモノデ

アリマシテ、私ハ大日本科學者會力或

ハ科學者報國團ガ出來ルベキデアルト

ト云フ論ヲ只今書イテ居ルヤウナ狀態デ

アリマス、サウ云ソタ適切ナ民間團體

モ出來テ居リマセヌ、大日本技術會ニ

對シマシテハ、本年度第二豫備金ニ依

テ、シツカリ之ヲ遺憾ナカラシムルヤ

リ上ツテ居ルノデアリマス、サウシテ居リマスカハマダ決定シテ居リ

ニ付キマシテ、大日本教育會ト云フモモウ相富出テ居ル、職場デ試驗官ヲ

持ツテ斃レタ儘遂ニ歸ラナカツタト云

フ研究者モアルノデアリマス、東京帝

大ノ大段博士、東北帝大ノ市原博士等、

既ニ新聞ニモ出大人達モアルノデアリ

マス、其ノ研究者ハ研究ノ便宜ノ方バ

カリデ、自分カラ申シマスナラバ、是

ニモ洵ニ有難イコト考ヘルノデアリ

マスガ、今日マデツイ他ノ色々ノ重要

ニコトニ追ハレマシテ、國民一般ノ興

論ヲ喚起スルトカ、運動スルトカ云フ所ニ至ツテ居ラナイ事情デゴザイマス

テ色々策致シテ居リマス、ソレニ付

テハ技術院ト文部省トハ緊密ナ連絡ヲ

取ツテ、決戰トナ技術者ニ及ブヤウニ警視廳ニ於テ特別ナ御配慮ヲ戴イテ居

ト考ヘテ居リマスガ、東京都ニ於テハリマス、又民間ニ於キマシテハ生活必

需品ニ關スル統制團體アタリデ好意ヲ寄セテ吳レテ居ルモノモアルノデアリ

マシテ、近ク内務省デハ全國地方廳ヘソレハ御手配ニナリマシタカ今ナツ

テ居ル所ト存ジマスガ、其ノ點遺憾ナキヤウニ致シタイト云フコトニ相成ツ

テ居リマス

○**高城委員** 今ノ教員ノ場合ノ御所見

ニ付テハ、多少誤リガアルカト思ヒマ

スガ、私ハ更ニ其ノ教員ダケノ問題デ

ル、斯ウ云フコトニ御盡力ガ願ヒタ
イ、尙ホ此ノ問題ニ付テ伺ヒタイコト
ハ色々アリマスガ、總裁ハ御急ギノヤ
ウデアリマスルカラ、總裁ノ方ノ質問
ハ是デ終リタイト思ヒマス

○村松委員長 最上君

○最上委員 私ハ總裁ニ最後ニ一項ダ
ケ御伺ヒシテ御算辨ヲ得タイト思ヒマ
ス、ソレハ昨年春デシタカ、政府ハ科
學研究ノ緊急鑿削方策要綱ヲ決定致シ
マシタ、從來戰局ニ鑑ミテ科學研究ニ
對シテハ、專心努力シテ居ルコトトハ
思ハレマスガ、恐ラク來年度ノ豫算ニ
モ是等科學振興ニ關スル幾多ノ豫算ガ
計上サレタコト思ハレマスガ、如何
ナル組織ヲ計畫サレテ居ルカ、又總裁
ノ御抱負ナリ若シ御持チデアリマシタ
ナラバ、具體的ニ事實ヲ擧ゲテ御説明
ガ願ヒタ

○八木政府委員 科學研究ヲ促進致シ
マスノニ、技術院自身ハ研究者ヲ持ツ
テ居ラナイ役所アリマス、官制ニ依
リマスルト、各廳ノ科學技術ノ仕事ヲ
綜合調整スルト云フイカメシイ任務ガ
規定サレテ居ルノデアリマス、併シソ
レハ他国科學技術ノ研究力ハ各廳ニア
ルト云フコトヲ意味シテ居ルノデアリ
マシテ、其ノ大部分ガ先程申上ダマシ
タヤウニ文部省ノ管轄下ニアリマシ
テ——陸海軍ノ中ニアルノハ今問題外ト
致シマス——ソレカラ民間ノ會社ニ
工場、研究所ニ科學技術研究力ガアル
ノデアリマス、ソレ等ハ別々ニ豫算ヲ
計上致シテ居ルヤウナ形デ、總豫算ニ
各所ニ盛ラレテ居ル譯アリマス、技
術院ノ擔當シテ居リマスノハ、民間ノ
新シイ技術ヲ助成援助スルト云フ面デ
アリマシテ、此ノ種類ニ對シテ技術院
ハ二十年度ニハ二千數百萬圓ノ豫算ヲ

鐵キタルトイト云フコトニ致シテ居リマス、之ヲ文部省ノ豫算ニ致シマスト相當多額ト考ヘマスガ、是ハ他省ノコトデハアリマスルガ、文部省トシテハ教育ト研究トガ密接ニ結付イテ居ル、ヨニ截然タル區劃ヲ作ルコトガ難カシイヤウナ概算ニナツテ居ルノデハナイカト考ヘマスガ、是ハ相當大キイモノト存ジテ居リマス、尙ホ軍需省ハ固ヨリ、農商省ニ於テモ運通省ニ於テモ、ソレバ、研究機關ヲ持ツテ居リマシテ、ソレノ豫算額ヲ合ハセマスレバ、日本ノ豫算トシテハ相當多額ナモノニアラウト考ヘテ居リマス、生憎ク只今其ノ數字ハ記憶致シマセヌ

○最上委員 技術院ノ問題ニ付テハ御答辯テ能ク分リマシタガ、文部省方面ニ於テ——他ノ軍需省ノ他ノ方面ハ別トシテ、文部省ニ於ケル今年度ノ科學振興ニ對スル何等か特別ナ新機構デモ御組ミニナツタノデアリマセウカ、ソレニ付テ伺ヒタイト思ヒマス

○清水政府委員 昭和二十年度ノ豫算ニ付キマシテハ、主タル經費ハ科學研究ニ關スル研究費デアリマス、其ノ研究費ハ大體前年度ト一應同額ヲ計上シ、更ニ情勢ニ依リマシテハ、第二豫備金カラ御願ヒ致ス積リデ考ヘ居ルノデアリマス、先程申シマシタヤウニシテ、昨年ノ八月ノ閣議決定ニ依リマシテ、學術研究會議ノ機構ガ改組擴充サレルコトニナリマシテ、既ニ官制ノ改正其ノ他ノ措置ヲ了シタノデアリマスガ、ソレニ依リマスレバ、恐ラク研究費モ前年通りデハ不足ニナルデアラウト思ハレルノデアリマス、併シ是ハ研究ノ實施ノ狀況ニ依リマシテ、年度最中ト相應ニ、是ハ機動的ニヤツテ行カナケレバ、當初

豫算ニ付キマシテハ一應前年通りヲ御願ヒ致シテ居ルノデアリマス、併シ此ノ研究費ハ豫算ノ項目トシテ、科學研究費トシテ計上サレテ居ルモノダケデナインオデアリマス、大學ノ講座ノ費用ノ中ニモ研究費ガ含マレテ居ル、又大學ノ附屬研究所ノ經費中ニモ研究費ガ含マレテ居ル、隨テ昭和二十年度ニ於ケル研究所ノ増設及び講座ノ増設ノ結果ニ依ル研究ニ關スル經費ノ增加ハ相當額ニ上ソテ居リマスガ、實ハ其ノ合算額ハ此處ニ持合ハセガゴザイマセヌシ、又只今技術院總裁ガ申サレマシタヤウニ、中ニハ教育ト不可分ノ關係ニアルモノモアルノデアリマシテ、例ヘバ講座ノ經費ノ如キハ其ノ一例デアリマス、一寸截然ト區別ハ難カシイモノデアルト思ヒマス

自分ガ文部大臣ニナツタラ君等ノ俸給半分ニシテシマフゾ、ソレハ好キナ機械ヲ買ツテ貰ヒ、好キナ書物ヲ買ツテ貰ツテ、好キナ藥品ヲ使ツテ樂ンデ居ルノダカラ、丁度骨董好キガ骨董品ヲ買ツテ貰フト同ジヤウナモノダカラ、ソレデ満足ダラウ、其ノ通リ、何モ要リマセヌ、唯若等ハ宜イガ、君等ノ家族ハソレヂヤ困ルカラ、先ヅ世間並ノ待遇ト云フコトニナツテ居ルノダ、斯ウ云フ冗談ヲ申スノデスガ、先ヅ一流學者ニ對シテノ處遇ハ、生活ト力金錢デハナイ、ソコデ下級ノ方ガ考ヘラマスト、其ノ下級ヨリ少シ上ノ所ガ此ノ次ノ問題ニナルノデアリマス、若大學生ノ助教授デアルトカ、助手ノ少シ古イ所デ子供ガ數人出來テ來タ者トカ、ソコニ深刻ナ問題ガアルト云フコトナ見テ居ルノデアリマスガ、別段ト云フ今見テ居リマスガ、別段ト云フ今見テ居リマスガ、別段ト云フ今度ハ具體的ナモノハ何モ出テ居リマセヌ

マシテハ現在ノ儘^{シテ}結構カト思ツテ居
リマスガ、物質上ノ方ニ付キマシテ居
ハ、今後更ニ一層努力致シマシテ、モ
ウ少シ優遇致スヤウニ考ヘテ行キタ
イ、是ハ當局トシテハ強ク考ヘテ要望
致シテ居ル次第アリマス

○景上委員 科學技術者ノ處遇ニ對シ
テ、只今政府委員ノ御答辯デハ、精神的
的面ニ於テハ是レ以上考ヘテ居ナイ
又是テ澤山トハ思ヒマセヌガ、現狀難
持ノヤウナ御詰アリマスガ、我々カ
ラ申スナラバ、精神的部面ニ於テモ、
將來其ノ地位官等ニ於テモ餘程考慮
シテ戴キタイト考ヘルノデアリマス、
物質的ノ面ニ付テモ、是ハ食糧問題ノ
ミナラズ、最近ノ實情ヲ見ルト、炭ガ出
ナクテ、「ストーブ」ガナクテ研究ガ出
來ヌト云フヤウナ聲モ聞クノデアリマス
マス、ドウカ是等ニ對シテモ、科學者
ヲシテ遺憾ナク研究サセルヤウニ十分
御手筈ヲ願ヒタイト思フノデアリマス
先程來高城委員ト技術院總裁並ニ文部
當局トノ間ニ、色々處遇問題ニ付テ質
疑應答ガアリ、待遇問題ニ付テ何等カ
民間團體デ、所謂援護會ノヤウナモノ
ヲ組織セヨト云フ高城委員ノ御意見ガ
アリマシタ、私モ贊成デアリマス、之ヲ
技術院總裁ニ言フノハ、如何カト思ヒマ
スガ、文部當局ナドハ文政問題ニ付テ
ハ、教育會其ノ他ガアルノデアリマス
カラ、是等ニ付テ今後何等力具體的事
實ヲ嶽ゲテ、御研究ニナルヤウナ御
慮ハアリマセウカ、今井政務次官カラ
御答ヘ願ヒタイト思ヒマス

○今齊政府委員 一體ニ技術家ガ他ノ
文官ニ比べマシテ、待遇ガ惡いト云フ
コトヨリそ、昇進ノ歩合ガ非常ニ遅イ
ト云フコトハ確カダト思ヒマス、如何
ニ今日日本ニ於キマシテ科學技術ヲ

興セセヨウトシテ、學校ヲドツサリ造
リマシテモ、將來ニ於テ出世ヲシナイ
ヤウナ學問デアリマスルナラバ、ソレ
ニ行ク人ハナクナツテシマフ、デスカ
ラ文科系統ト同ジ率ニ昇進スルヤウナ
方法ヲ執ルト云フコトモ一ツデハアル
マイカ、サウシテ文科ヲ選バウガ理科
ヲ選バウガ、物質的ニモ亦精神的ニモ
同ジ率、同ジ速度デ昇進シテ行クト云
フ途ガ開ケマスルナラバ、茲ニ理科系
統ノ者モ安心シテ其ノ職ニ從フコト
ガ出來ルデアラウト思ヒマス、將來ニ
於キマシテハ、サウ云フ方向ニ進ミタ
イト考ヘテ居リマス

○最上委員 ソレカラサウ云フ精神方
面バカリデナク、物質面ニ於テ何等カ
ノ後援團體ト云フヤウナモノヲ組織シ
テ、大ニイ技術者ノ援護ヲスルト云フ
ヤウナ方途デモ、今後御考究ニナルヤ
ウナ御考ヘデモアリマセウカ、ソレニ
付テ御伺ビシタイ

○今井政府委員 現在ノ所マダ考ヘテ
居リマセヌケレドモ、御趣旨ニ依リマ
シテ一ツ研究シテ見タイト思ヒマス

○花村委員 一寸牽聯シテ伺ヒタイ、
只今ノ御質問ノ趣旨ハ御尤モデアリマ
スルガ、全ク此ノ科學技術ノ進歩向上
ハ、技術者ノ犠牲的挺身的報國ノ念
ニ俟タナケレバナラスト思フノデアリマ
スルガ、ソレニハヤハリ物質的、精神
的兩面ニ於テ十分ニ優遇ヲシテヤルト
云フコトガ最モ必要デアルト思ヒマ
ス、精神的ニハ相當優遇シテ居ルヤウ
ナ考ヘ方ハドウカト思フノデアリマ
ス、拒シモ尙ホ且ツヨリ多クノ優遇ノ
事ヲ講ジテヤルト云フコトデアツテコ

ソ、初メテ發債努力スルノデハナカラ
ウカト思フノデアリマスガ、諸外國ニ
於ケル科學技術者ニ對スル國家トシテ
ノ優遇ノ方途ト我國ニ於ケルモノト
ハ大分懸隔ガアリ、外國ニ於キマシテ
ハ精神的、物質的兩方面カラ特段ナル
優遇ヲシテ居ルヤニ聞イテ居ルノデ
アリマスガ、其ノ邊ハ如何デセウカ、
外國ノ科學技術者ニ對スル優遇ノ國家
の方途ト、サウシテ此ノ日本ニ於ケル
優遇ト、ドウ云フヤウナ相違ガアリマ
セウカ、ソレヲ大體伺ヒタイト思ヒマ
ス

ユル病根ニナツテ居ルノダ、之ヲ打開スル爲ニモ、米英ヲ蠻撻シナケレバナラナイコトニナツタノダ、斯ウ申シテ居ルノデアリマス、歴史的ニソレ等ノ説明ヲ付ケテ見タ所デ、役ニモ立チマセヌノデアリマスルガ、特ニ日本デ明カニ見エマスルコトハ、只今并政務次官ガ言ハレマシタ理工科方面ノ者ノ昇進ガ遅イト云フコト、是ハ必ズシモサウ言ヘナインデアリマス、或ル時期ニハ、例ヘバ大學出ノ法學士ノ初任給ガ二十五圓ダツタト云フ時代ニ、工學士ハ七、八十圓モ取ツテ居ツタ時モアル、技術方面、科學方面ハ良イノダト言ツタ時代モナインデアリマシテ、日本ノ文官任用令ト云フモノゴトニ付テハ、彼此レ申ナイン致シマシテモ、私ハ個人的ノ感ジト致シマシテ、日本ノ文官任用令ト云フモノガ、何トカ修正サレナケレバナラナイ、茲ニ大キナ問題ガアル、斯ウ感じテ居リマス

ス、之ニ付テ昭和十九年ノ五月三日
ニ、國民教育局長カラ發國二百七十九
號ヲ以テ、決戰非常指置要綱ニ基ク、中
等學校教育内容ニ關スル指置要綱ト云
フモノガ出テ居リマス、是ハ中等學校
ニ對スルモノデアリマスガ、今度ハ十
九年ノ八月二十九日ニ發國四百七十二
号ヲ以テ、國民教育局長カラ國民學
校教育ニ關スル指置、學徒勤勞ノ徹底強
化ニ伴フ國民學校ノ教育ノ内容ニ關スル
件ト云フモノヲ各學校ニ配布サレント
居リマス、其ノ内容ハ多岐ニ亘リマス
カラ、全部申上ゲル暇ハアリマセマ
ガ、之ニ依ツテ重點敎育ガ行ハレテ、
短イ時間ニ戰局ニ即應スル敎育ヲヤツ
テ行カウト云フ狙ヒノヤウデアリマ
ス、ソコデ其ノ内容ヲ見テミマスル時
ト、前ニモ文部政務次官カラ御答辯ガ
アリマシタヤウニ、敎育ハ是非必要ナ
ノダ、唯授業時間ガ勤労トノ出合ハセ
ニ依ツテ増減サレルダケノコトデ、敎
育ハ極メテ重要デアルト云フ御答辯
承ツタノデアリマス、此ノ敎育ノ重要
デアルト云フコトハ、前ニモ申上ゲタ
ヤウニ、精神的ニモ、又科學技術的ニ
モ、是非トモ認メナケレバナラナイノ
デアリマス、所ガ此ノ中、通常勤労教
員ノアツタ場合ニ、是ハモウ五月三日
ノ通牒デアリマスカラ、隨分變ツタダ
ラウト思ヒマス、其ノ當時ト今日トテ
ハ此ノ特設授業時間ト云フモノガ相當
變ツタト思ヒマスガ、ドウ云フ程度變
ツカ、簡單ニ其ノ變ツタ點ノ主ナル
所ヲ御伺ヒ致シマス

板フヤウニ指示サレタノデアリマス、其ノ後更ニ強化サレマンテ、通年动员ニセラレルニ至リマシテ、實際經營スル時間ハ極メテ少ク相成ツテ居マス、一時ハ毎週一回ハ必ズ登校日コトニ定メロト云フコトヲ指示シタノデアリマスガ、ソレモ實際ハ出來マセヌデ、現在ハ手待時間其ノ勤勞ノ餘裕アリシテ、其ノ時間ヲ十分ニ活用スルヤウニ、現在ハ取計ラフヤウニ致シテ居ニマシテ、學校デハ此ノ通牒ノ趣旨ヲ汲ミテ、實際具體的ニドウスレバ宜イカニマスガ、尙ホ現在私共ノ研究ノデアリマスニテ、キマシテハ、サウ云フ場合ニテ、云フコトニ付キマシテ、研究ヲ進メニ居ルヤウナ次第アリマス

ナツテ來ルト、斯ウ云フコトモ考ヘラ
レナイカモ知レマセヌガ、現在ノ段階
ニ於キマシテハ、工場ニ學徒ガ勤貢サ
レテ行キマシテモ、工場ニ於テ工員全
體ガ毎日切詰メタ時間デ本當ニ精根ヲ
籠メテヤツテ居ルカト云フヤウナコト
バ、ドウモ疑ハシイト思ハレル、實際
ハ資材等ノ入手ノ見透シガ付カナイデ
遊バセテ置イタリ、或ハ又勞務ノ豫備
軍トシテ貯ヘテ置イタリスルヤウナコ
トデ、相當勞務ヲ整理スレバ、學徒ヲ
シテモウ少シ學校鍊成ヲシ精神教育、
科學教育ヲスル餘地ガアルノデハナイ
カト思フヤウナ點ガアルノデアリマ
ス、成ルベク教育ニ多クノ時間ヲ費シナ
ガラ、勤勞ニモ從事ガ出來ル云フ、
兩全ヲ圖ルコトガ大切ナコト思ヒマ
スガ、其ノ一方トシテ學校ヲ工場ニ
變ヘル、詰リ是ハ仕事ノ性質又事情ニ
依ソテ違ヒマスガ、事情ノ許ス限リ學
校工場ヲ認メル、或ル師範學校アタリ
ニシテ、ソコデ仕事ヲヤツテ又學校鍊
成モヤルト云フ風ニスレバ、非常ニ生
産ト教育トガ兩全ヲ期セラレルト私ハ
信ズルノデアリマスガ、多クソレヲ利
用シ、勸善シテ進マセル方法ヲ執ラシ
テハ戴ケナイデセウカ、又ソレニ對ス
ル御施策、見透シガアリマスカ、厚生
省ノ方ニモ文部省ノ方ニモ御伺ヒ致シ
タイト思ヒマス

モ、目下工場疏開ト云フコトが非常ニ
重要ナ問題ニナツテ居リマス、其ノ工
場疏開ト云フヤウチ難點ニモ即應致シ
マシテ、益々可能ナ場合ニ於テハ學校
工場化ノ促進ヲ圖リタイト思ツテ居リ
マス、是ハ單ニ思ツテ居ルノミナラ
ズ、關係ノ各省トモ其ノコトニ付テ協
議ヲ致シ、地方長官其ノ他ヘモ通牒ヲ
致シ、ソレハノ手配モ濟シ居リマ
シテ、目下着々工場化ノ問題ハ實現シ
ツ、アル現状デゴザイマス

心、研究心ト申シマスカ、之ヲ持ツテ居ルコト、又第二ニハ母様愛ヲ中心トシタ友達ノ集團デアルト云フヤウナ所ニ、學徒トシテノ矜持ノ根源ガアルト思ヒマス、ソコデ學徒ノ矜持ラシテ何時マデモ失ハシメザルヤウニスル爲ニハ、其ノ一ツニ於テハ御話ノ如クニ彼等ノ持ツ旺盛ナル向學心、研究心ヲ色々ノ形デ満足セシタル手段ヲ講ズルコトト、其ノ二ニハ母校愛ヲ中心トル集團組織ノ體系ト云フモノヲ出來ルダケ崩サナイデ、其ノ中デノ活動ヲナサシメルト云フヤウナコトガ、學徒ノ矜持ヲ失ハシメナイト云フコトノ手段ニナラウカト思ツテ居リマス、隨テ御話ノ如クニ工場ニ居リマシテモ、色々ノ機會デ是等ニ職業ヲ援ケルト云フヤウナコトニ付キマシテハ、全クソコニ狙ヒ所ガアルコトデゴザイマシテ、洵ニ當局トシマシテモ贊成致ス所デアリマスシマシテ、工場内ニ教育的雰圍氣ヲバ釀成セシメル、シレガ爲ニ詰リ母校或ハ學徒ノ教養ノ向上、今總務局長ノ言ハレマシタ教養ノ向上ト、母校ト云フ觀念ヲ持タセル、斯ウ云フコトニナリマスト、ドウシシテモ學徒ノ勞務管理ハ、厚生省ダケデナシニ、其ノ教育的使命ヲ持ツモノガ、學徒ノ勞務管理ニ援助シテ行クヤウナモノヲ作ツテ行カナケレバ、工場内ニ於テモ母校愛ハ愛國心ト同ジヤウニ自然ニ湧イテ來ルカモ知レナイガ、教育的雰圍氣ガスツカリ銷沈シテシマヘバ、教養モナクナレバ遂ニハ知ラズ識ラズノ間ニ工貞化シテ來ルシ、又實際其ノ弊風ガアル、是ハドウシテモ教育面ノ實施、教育的施設ト云フモノヲ與ヘテ、學徒ガ更ニ飛躍シ

ト云ツタヤウナ、積極的ナル考へ方ヲ持ツテ戴キタイ、勿論文部省ノオ仕事デアリマスカラ、斯ウシタイト希望サレマシテ、他ノ省ノ方デドウシテモ之ニ協力シテ戴カナケレバナラヌ、又厚生省ノ方デモ生産ノ能率ガ上ルコトハ國家ノ爲ニ宜イノデアリマスカラ、其ノ方向ニ付テ御考ヘニナツテ居ラレルダラウト思ヒマスガ、ドウデスカ、一般工員ト學徒ヲ唯勤勞ノ供給源トシテ見ナイデ、一ツ學徒ガ勤勞意欲ヲ旺盛ニスルヤウナ、教育的施設ヲ講ズルヤウナコトニ、御考ヘニナレナイモノデセウカ、其ノ點ニ付テ御伺ヒシタイト思ヒマス

○永美政府委員 御話ノ通りニ或ハ違
ツテ居ルカモ分リマセヌガ、學校デ習
シタコトヲ工場ニ於テ實習スルト云フ
ヤウナ方針デハナクシテ、現在ノ學徒
動員ノ方向ト云フモノハ、モウ端的ニ
現在ノ日本ニ必要ナル軍需生産ヲ寄與
スル、生產ノ命ヅル所ニ從ツテ是ガ最
モ能率良ク出來ルヤウニ、勤勞ニ從事
スルト云フコトガ重點デアリマス、サ
ウヤツテ行キマスクロトガ、隨テ又教育
的ニ考ヘテモ實習トシテノ效果ガ身ニ付
イテ來ルデアラウト云フ風ニ考ヘテ居
リマス、考ヘ方カラ申シマスト、學校
デ習ツタコトノ實習ヲ工場デヤルト云
フヨリモ工場デ生產ニ一生懸命從事ス
ルゴトガ、教育トシテモ立派ナ實習場
トシテ考ヘラレルト云フ風ナ考ヘ方デ
居リマス

思ヒマス、學校ノ工場化ト云フコトニ
對シテハ、今仲井間サンカラモ許シク
御話ガアリマシタシ、政府側カラモ御
話ガアリマシテ、全ク風紀上カラモ其
ノ他ノ點カラモ、學校ノ工場化ハ必要
ナコトダト思フノデアリマスガ、現在
私共闇イタ範圍デハ、工場化サレテ居
ル數ト云フモノハ非常ニ少イヤウニ考
ヘテ居リマスガ、ドノ位ノ程度ニナツ
テ居リマスカ

○永井政府委員 今ハツキリシタ數字
ヲ持ツテ居リマセヌガ、實ハ先程申シ
マシタヤウニ、工場疎開等トモ關聯ヲ
シテ、今後ニ於キマシテハ學校ヲ工場
化スルト云フ事態ガ非常ニ多クナツテ
來ルダラウ、目下關係方面モ極力サウ
云フコトデ工場ヲ物色シテ居ラレルノ
デ、我々ト話合ヒヲシテ居リマス、サウ
云フ狀態ハ今後ニ於テハ非常ニ多クナ
ルト思ヒマス、是マデノ數ハ一寸今覺
エテ居リマセヌガ、御話ノ如ク餘リ多
クナイカト思ヒマス

○渡邊(健)委員 私共ノ見タ範圍デハ
特殊ノ町、特殊ノ縣、直接工場ト關係
ノアルヤウナ所ニハ工場化ガ行渡ツテ
居リマスガ、其ノ他ノ點ニ於テハドウ
モ行渡ツテ居ラヌヤウデアリマス、行
渡ラヌ原因ハ工場側ニアルノカ、學校
側、詰リ文部省側カ、或ハ縣ノ方ノ指
導ノ側ニ責任ガアルノカ、其ノ點ヲ御
伺ヒシタイト思ヒマス

○永井政府委員 ドチラニ責任ガアル
ト云フコトデハゴザイマセヌノデ、是
マデハヤハリ工場ヲ成ルベク便利ナ所ヘ
ト云フヤウナコトデ、工場側モ學校側
ヘ移ルト云フコトヲ好マナカツタ、學
校モ成ルタケナラ工場ニナルコトヲ避ケ
レバ避ケテモ宜カラウカト云フヤウナ氣
持ガ、是ハ極端ナ場合ヲ言ヒマスケレ

ドモ、ナイデモナカツタト思ヒマス
ガ、今日ノ状態デ學校ガ通年動員サレ
テ來ル、又工場モ色々ナ點テ疎開ノ問

題、其ノ他ニ關聯シテ是ハ何處カニ建
物ヲ物色シテヤラナケレバナラヌト云
フコトニナルト、雙方ノ氣持ガピツタ
リト合ツテ來ルコトニナルノデ、ドチ
ラガ責任ガアツタト云フ問題デハナイ
カト思ヒマス

○渡邊(健)委員 ソレカラ先程御話ガ
アリマシタガ、其ノ學校デ習得スル學問
ニ關係ノアル工場ニ成ルベク配屬スル
ト云フ御話ハ洵ニ結構ダト思ヒマス
ガ、併シは此ノ事業ニハ學徒ハ動員
スル、此ノ事業ニハ學徒ハ動員セヌト
云フ何カ限界ガオアリニナルノデス
カ、例ヘバ私ノ方デ女學校ノ生徒ガ新
シイ軍需工場ニハ動員出來ルケレド
モ、軍隊ガ直グ側ニアルモノデスカラ、
其ノ軍隊ノ軍服ノ修理ヲ一手ニ引受ケ
テ學校デヤツテ居タノデス、所ガソレ
ハ學徒動員ノ意義ニ合致セヌト云フ譯
デ、ソレヲ全然止セセラレテ、別ナ軍
需工場ニ通ハサレテ居ル例ガアルノデ
スガ、ソンナコトハイカスト云フコト
ニナツテ居ルノデスカ

○永井政府委員 左様デアリマス
○渡邊(健)委員 私ハ是デ終リマス
○村松委員長 明日ハ午後一時カラ開
會致シマシテ、本日ハ之ニテ散會致シ
マス

午後四時四十六分散會

昭和二十年一月五日印刷

昭和二十年一月六日發行

衆議院事務局

印刷者 印 刷 局